

弥富市生涯学習推進計画

弥富市スポーツ推進計画

令和6年度～令和15年度



令和6年8月

弥 富 市

第3編 スポーツ推進計画	59
第1章 現状と課題	60
1. 弥富市の現状	60
2. アンケート調査結果からみる現状	68
3. 弥富市の現状と課題のまとめ	83
第2章 計画の基本的な考え方	85
1. 基本理念	85
2. 基本目標	86
3. 施策体系	87
第3章 施策の展開	88
基本目標 1 スポーツに親しむ機会の創出	
～スポーツを「する」「みる」～	88
基本目標 2 スポーツをとりまく環境の充実	
～スポーツを「ささえる」～	94
基本目標 3 スポーツを通じたまちの魅力の創造	
～スポーツで「つながる」～	97
第4章 計画の推進	98
1. 計画の推進体制	98
2. 成果目標	99
資料編	101
1. 弥富市生涯学習推進計画・スポーツ推進計画策定委員会設置要綱	102
2. アンケート調査結果	104
3. 用語解説	135

用語の解説

計画書中において「_____＊」がついている用語については、巻末「資料編」の「2.用語解説」に用語の説明を掲載しています。

（「_____＊」は該当の用語が初出となる箇所にのみ）

第Ⅰ編

計画の概要



第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨・背景

私たちを取り巻く社会は少子高齢化や人口減少、急速な情報化、価値観の多様化等により、めまぐるしく変化しています。また、人生100年時代*と言われる現代においては、一人一人がその可能性を最大限に引き出し、豊かな人生を送ることができるよう、誰もがあらゆる機会に学び続けることができる環境づくりが求められており、生涯学習の重要性は一層増しています。

また、少子高齢化の進行や地域のつながりの希薄化、若年・現役世代の地域参加の乏しさなど、地域には様々な課題が山積しています。一人一人が自身の人生の豊かさのために学ぶだけでなく、その学習活動がこうした地域の課題解決に資するものとなるよう、学んだ学習成果を地域社会で生かすことのできる循環型の社会の構築が求められており、市民が個人として、または仲間同士で生涯を通して気軽に楽しく学び続けることができるよう、社会情勢の変遷も考慮しながら、より身近な生涯学習環境の実現をめざして、「弥富市生涯学習推進計画（以下、「生涯学習推進計画」という。）」を策定します。

本市のスポーツでは、スポーツ振興を4つの観点から体系的に推し進めていくため、令和元年（2019年）3月に「弥富市総合計画」を策定し、「心豊かで文化を育む人づくりのまち」を基本目標に掲げ、スポーツ推進に関する取組を進めてきましたが、「スポーツ庁」の創設（平成27年（2015年）10月）、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催など、スポーツを取り巻く環境は大きく変わってきました。

また、国においては2022年度に「第3期スポーツ基本計画」が策定され、県においても「愛知県スポーツ推進計画」の見直しがされたところです。

そのような中で、本市においても時代に即した効果的なスポーツ施策を推進するため、本市のスポーツ推進の基本的な考え方や施策を示した「弥富市スポーツ推進計画（以下、「スポーツ推進計画」という。）」を策定します。



2. 計画策定の方針

生涯学習推進計画及びスポーツ推進計画は、弥富市教育大綱が掲げる基本理念、基本目標に基づき、生涯学習施策及びスポーツ施策を推進します。

(1) 弥富市生涯学習推進計画

生涯学習推進計画では、市民一人一人が生涯にわたって、自己の人格を磨き、豊かな人生を送り、さらには活力ある地域社会をつくるため、自発的意思に基づき、自己に適した手段や方法により、継続的に行う学習活動を生涯学習として捉えます。

また、これまで生涯学習行政の果たしてきた役割や取り組みを検証するとともに、少子高齢化の進展や市民のライフスタイルの変化、地域社会が抱える課題の多様化など、弥富市を取り巻く状況の変化に対応するとともに、市民一人一人が生涯にわたり学習し、学びの循環を通して市民同士のつながりを深め、学習の成果を生かすことで、豊かなまちづくりにつながる生涯学習社会の実現に向けた計画とします。

(2) 弥富市スポーツ推進計画

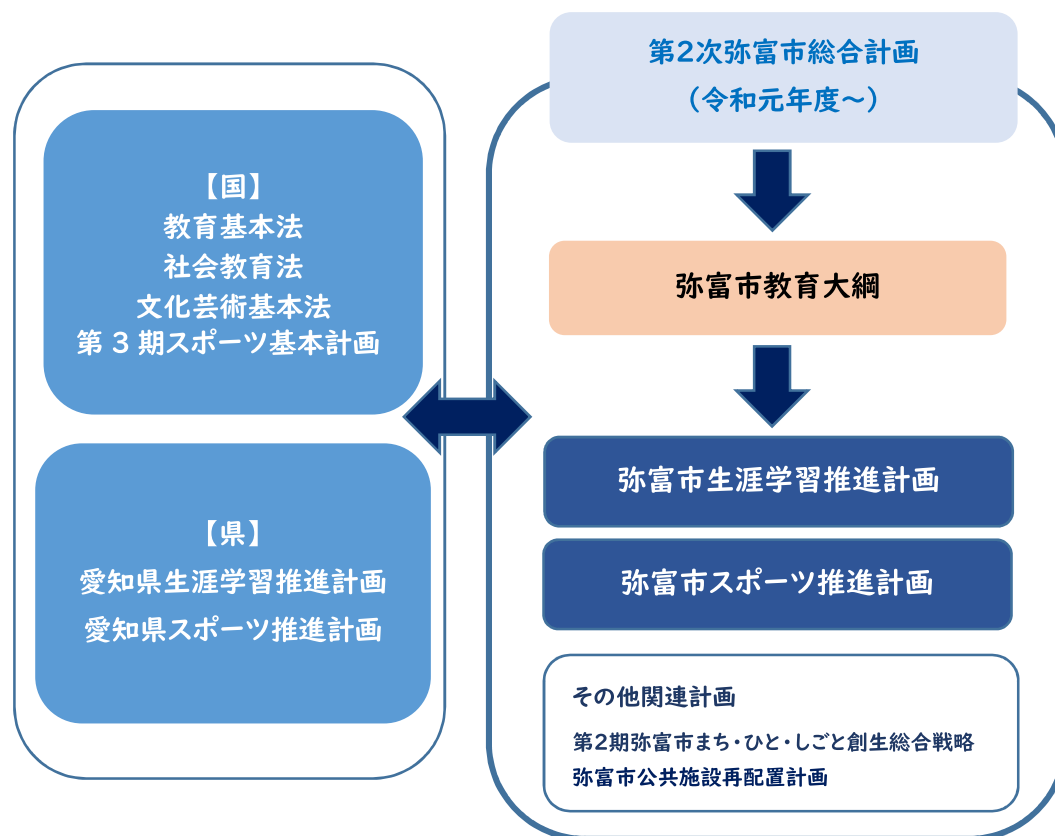
スポーツ推進計画では、市民がスポーツをより身近なものとして感じ、気軽に楽しむことができるよう、「スポーツ」の概念を広く定義づけ、陸上競技や野球、サッカーのような勝敗を争う競技スポーツだけではなく、楽しむためのスポーツやウォーキング、散歩、軽い体操など、趣味や健康づくり・体力づくりのために身体を動かす活動も健康な生活を実現するための生涯スポーツとして捉えます。

また、スポーツ健康都市宣言や生涯スポーツの取り組みの成果と課題を検証し、弥富市を取り巻く状況の変化に対応するとともに、市民一人一人が日ごろからスポーツに親しみ、スポーツを楽しめるよう、「する」「みる」「ささえる」「つながる」の視点からスポーツへの参画を促し、スポーツによる地域での交流等を通して豊かなまちづくりの実現に向けた計画とします。

3. 計画の位置づけ

生涯学習推進計画及びスポーツ推進計画は、弥富市総合計画の基本構想に示された将来の都市像の実現に向けた取り組みを推進する計画とします。

また、教育基本法及びスポーツ基本法並びに「弥富市教育大綱」の理念や方針を踏まえるとともに、庁内関連部署で行う生涯学習・スポーツの推進に関連する方針や計画との連携・整合を図った教育分野の個別計画とします。



4. 計画の期間

生涯学習推進計画及びスポーツ推進計画の計画期間は、令和6年度（2024年度）から令和15年度（2033年度）までの10年間とします。

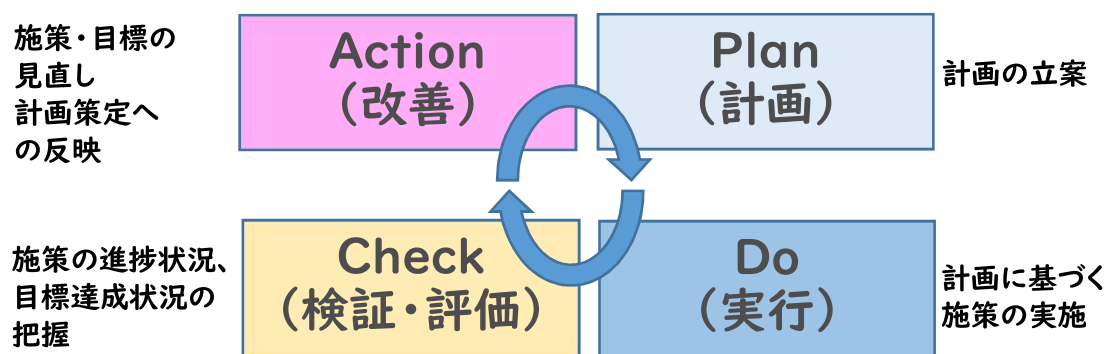
ただし、社会情勢や施策の進捗状況などを踏まえ、計画期間の中間年を目途に見直しを行います。

5. 計画の進捗管理

本計画における取組の推進に向けては、弥富市教育部生涯学習課が中心となり、計画の周知を行うとともに、関係各課との連携を図りながら、全庁的な推進を図ります。

また、本計画を効果的に推進し目標を達成するため、PDCA サイクル*に基づき取組の進捗状況を把握し、弥富市社会教育委員会が適切に評価を行います。その結果を受けて生涯学習課が関係各課と情報共有しながら適宜改善を図っていくことにより計画の進捗管理を行います。

また、進捗状況の把握にあたっては、年度毎の庁内各課への取組状況調査のほか、本計画の基本目標ごとに設定した成果目標の達成度を測り、取組状況の評価を行い、次期計画における施策の検討につなげます。



6. SDGs との関係

平成27年(2015年)9月の国連サミットにおいて、SDGs が採択されました。SDGs とは持続可能な未来を達成するための開発目標で、17のゴールと169のターゲットが設定されていますが、それぞれのゴールとターゲットは相互に関連して持続的な発展を目指すものです。

SDGs の推進にあたっては、「誰一人取り残さない」を合言葉に、世の中の実現や、経済、社会、環境の統合が実現された未来を目指すことが重要であるとされており、国においても、その達成に向けた取組が進められています。本市においても地方創生に向けた取組の推進とあわせて SDGs の推進に取り組んでおり、「第2次弥富市総合計画」の各施策分野に17のゴールを関連づけることにより、全庁的な推進を図っています。

本計画は、SDGs が示す17のゴールのうち、「3 すべての人に健康と福祉を」、「4 質の高い教育をみんなに」、「5 ジェンダー平等を実現しよう」、「10 人や国の不平等をなくそう」、「11 住み続けられるまちづくりを」、「13 気候変動に具体的な対策を」、「16 平和と公正をすべての人に」及び「17 パートナリシップで目標を達成しよう」の8つのゴールを目標達成に資する取組として位置づけます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



第2章 生涯学習・スポーツを取り巻く状況

1. 生涯学習

(1) 国の動向

平成30年(2018年)に閣議決定された「第3期教育振興基本計画」における「今後の教育政策に関する基本的な方針」では、生涯学習に関連する目標として、「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」、「人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進」、「職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進」、「障がい者の生涯学習の推進」が挙げられ、生涯学び、活躍できる環境を整えていくことの必要性が示されています。

また、平成30年(2018年)12月の中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、今後の地域における社会教育のあり方として、「社会教育を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり」が示されています。

(2) 人口減少と少子高齢化の進行

人口減少と少子高齢化の進行に伴い、家庭の教育力の低下や地域や世代間の交流の減少などが懸念されています。

そこで、子どもを安心して産み育てられるよう、子育て家庭への支援を充実させるとともに、高齢者が、健康で豊かな生活を送るための生きがいづくりや豊かな人生経験を生かせる地域社会での活躍の場づくりが求められています。

また、学校・家庭・地域を含めた社会全体で、地域課題の解決に向けた取り組みをより一層推進していくことも求められています。

(3) グローバル化や高度情報化の進展

社会や経済、情報のグローバル化が進展している中で、コミュニケーション能力の育成や、多様な文化を理解し認め合う国際人として活動できる能力が求められています。

さらに高度情報化社会では、ICT(情報通信技術)*やAI(人工知能)*、IoT(Internet of Things)*などの急速な技術革新に適応するための教育や、情報モラルに対する教育の重要性が高まっています。

また、国際化の進展については、異なる文化や価値観を持った人々と交流する機会が増えることから、国際交流を支援するためのグループや人材の育成が課題であり、地域社会では、外国人と共生し相互理解を深めていくことが求められています。

(4) ライフスタイルや価値観の多様化

ライフスタイルや個人の生き方、価値観が多様化しており、生涯を通じて健康で生きがいのある人生を送るため、様々な学習機会の充実が求められています。

さらに、生涯学習は、個人の楽しみや自己の向上のために行われるだけでなく、市民一人一人が学びを通じて、生き生きと暮らし、地域社会とのつながりを育み、互いに支え合いながら豊かに共生するまちをつくることを目的として行うことが、今まで以上に求められています。

(5) 多様な生き方が尊重される社会

個人の価値観が多様化している現代社会において、年齢や性別、国籍、障がいの有無にかかわらず、一人一人の人格や個性、多様な生き方が尊重され、互いに支え合い、誰もが将来に希望を持って人生を送ることができる社会の実現が求められています。

(6) 県の動向

愛知県においては、平成25年に「愛知県生涯学習推進計画」が策定され、その基本理念として「自己を高め、地域とつながり、未来を築く生涯学習社会」が掲げられています。

その後、平成30年に「愛知県生涯学習推進計画」の基本理念を継承した「第2期愛知県生涯学習推進計画」が策定されています。

第2期計画では、基本理念を実現するための3つの視点として、「個人の自立を促し、学びを生かす機会の充実」・「地域の絆(きずな)づくり・ネットワークづくりの促進」・「多様な主体による連携・協働の強化」が設定されており、「長寿社会を豊かに生きる生涯学習」・「家庭と地域の教育力を高める生涯学習」・「持続可能な社会づくりを進める生涯学習」・「職業的自立を高める生涯学習」・「生涯学習推進体制づくり」が生涯学習施策を展開する5つの基本的な柱として掲げられています。

現在、2023年度～2027年度までの5年間を計画期間として策定された「第3期愛知県生涯学習推進計画」でも、引き続きこれまでの基本理念を踏襲した取り組みとされています。



2. スポーツ

(1) 国の動向

平成23年(2011年)6月に「スポーツ振興法」を全面改定した「スポーツ基本法」が制定されました。この法律は、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、スポーツ立国を実現することを目的として制定された法律で、スポーツに関する基本理念や施策の基本となる事項を定めたものです。

この「スポーツ基本法」に基づき、平成24年(2012年)3月に「第1期スポーツ基本計画」が文部科学省によって策定されました。「スポーツ基本計画」では、スポーツの果たす役割の重要性を踏まえ、「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の創出を目指していくことが必要であると示されています。

その後、平成27年(2015年)10月には、「スポーツ立国」を実現するための組織として、「スポーツ庁」が設立され、平成29年(2017年)3月に「第2期スポーツ基本計画」が策定されています。第2期計画では、新しい時代におけるスポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割の重要性が示されるとともに、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」といった「スポーツ参画人口」を拡大し、「一億総スポーツ社会*」を実現するための、国や地方公共団体の責務、スポーツ団体の努力等が明らかにされています。

また、令和4年(2022年)3月に策定された「第3期スポーツ基本計画」では、新型コロナウイルス感染症の拡大によりスポーツ活動の機会が制限されたことや、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の影響、その他の社会情勢等を踏まえ、「スポーツ」がもつ価値をさらに高めることが重要であると考えられています。

「スポーツ」がもつ価値には、この2つの観点があると考えられます。

- ①「スポーツ自体が有する価値」
- ②「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」

スポーツの価値を高めるための新たな3つの視点として重要視されています。

- ①スポーツを「つくる／はぐくむ」
- ②スポーツで「あつまり、ともに、つながる」
- ③スポーツに「だれもがアクセスできる」

(5) 県の動向

愛知県では、平成25年(2013年)3月に「いきいきあいちスポーツプラン ～豊かなスポーツライフの創造～」が策定されています。この計画では、県民一人一人がそれぞれのライフステージや興味・関心等に応じて、「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しみ、活力ある「スポーツ愛知」を実現するための基本的な方向性が示されています。

また、計画の中間年度である平成29年度(2017年度)に見直しを行い、「いきいきあいち スポーツプラン(改訂版)」が策定されています。この計画は令和4年度(2022年度)までの計画であるため、現在は次期計画の作成が進められています。

(6) 第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会の開催

令和8年(2026年)には愛知県において、第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会が開催されることとなっています。

アジア競技大会は、4年に1度開催されるアジア最大のスポーツの祭典で、アジアの45の国と地域が参加します。

大会のスローガン「IMAGINE ONE ASIA ここで、ひとつに。」スポーツが持つ力を生かし、多様性が進む社会で、一人一人が未来へ向かって進んでいけるようにとの願いが込められています。



(2) ライフスタイルや価値観の多様化

ライフスタイルや個人の生き方、価値観の多様化などにより、人々の人間関係の希薄化や地域参画への意識が低下しています。

そのため、スポーツを通じて人と人をつなぎ、人々の意識や行動を変え、地域への参画につながる施策の推進が求められています。

こうした中、「スポーツ実施率向上のための行動計画」が、スポーツ庁により平成30年(2018年)9月に策定されました。生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ」を実践することにより、スポーツの価値の享受、健康増進、健康寿命*の延伸を図るなど、健康長寿社会を実現していくことが示されています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をレガシー*として、地域スポーツをより一層発展させ、多くの人がスポーツを楽しむことができる社会を目指し、「Sport in Life プロジェクト」が推進されています。

(3) 大規模国際大会の開催に伴うスポーツ機運の高まり

令和元年(2019年)にはラグビーワールドカップ2019日本大会、令和3年(2021年)には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会といった大規模な国際スポーツ大会が国内で開催され、日本中を巻き込む盛り上がりを見せました。

こういった国際スポーツ大会のレガシーを継承し、地域の活性化につなげていくことが求められています。

(4) 障がい者スポーツを取り巻く状況

障がいのある人がその個性や能力を生かして活躍できる場のより一層の拡大を目指して、スポーツや文化、生涯学習などの分野における障がい者施策をとりまとめた「障がい者活躍推進プラン」が、平成31年(2019年)の1月～4月にかけて策定されました。

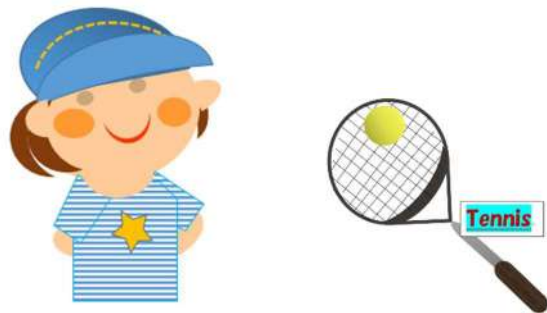
「障がい者活躍推進プラン」のうち、スポーツ分野に関するプランとして、「障がいのある人のスポーツ活動を支援する ～障がい者のスポーツ活動推進プラン～」が、スポーツ庁により平成31年(2019年)3月に策定され、障がいのある人がスポーツを実施するための拠点の整備などに関する対策がとりまとめられました。

パラリンピック競技大会の普及・振興やパラアスリートの活躍をきっかけに、障がい者スポーツの認知度は向上しつつありますが、障がいのある人がスポーツに親しむ機会はまだまだ十分とはいえず、障がい者スポーツの裾野の拡大が求められています。



第3編

スポーツ推進計画



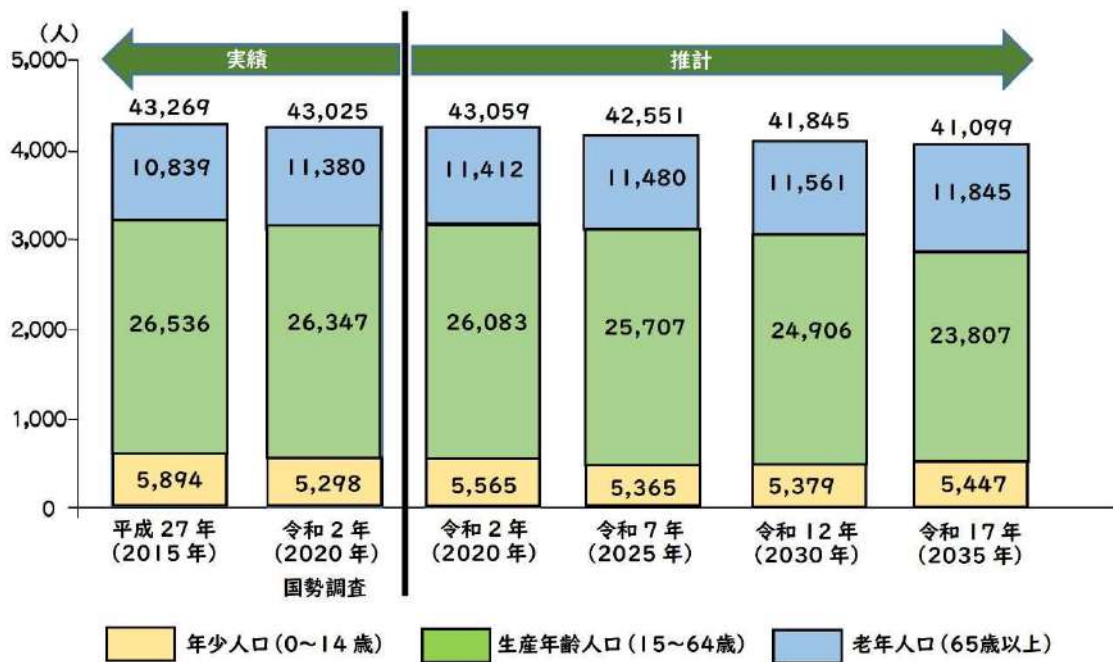
第1章 現状と課題

1. 弥富市の現状

(1) 人口の状況

- 市の人口は年々減少しており、令和17年（2035年）には41,099人まで減少することが予想されています。

人口の推移

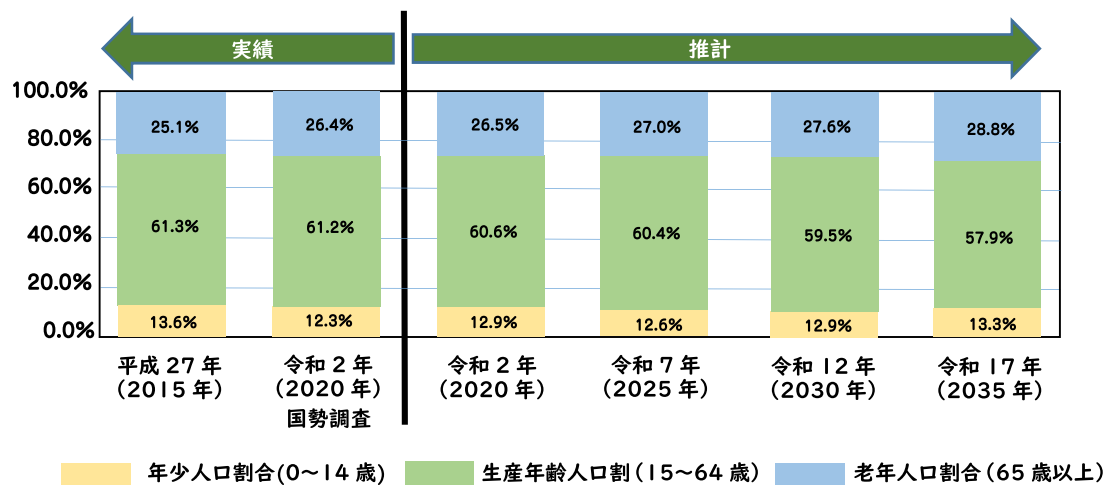


資料：国勢調査、第2次弥富市総合計画後期基本計画（年齢別人口より）



- 少子高齢化も年々進み、高齢者の割合は令和17年（2035年）以降には30%を超えることが予測されています。

少子高齢化の推移



資料：国勢調査、第2次弥富市総合計画後期基本計画（年齢別人口より）



(2) 主な取組の状況

① スポーツの推進

- 市スポーツ協会加盟団体が行う各種スポーツ大会、スポーツ教室、スポーツ講習会、やとみRUNフェスタ、歩け歩け大会などの各種スポーツ大会の開催を通じ、市民のスポーツ活動への参加促進を図っています。
- スポーツ推進委員会では、ENJOYスポーツDAYとしてニュースポーツ体験会の開催を通じ、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、誰もが気軽に楽しめるレクリエーションの一環としてのニュースポーツの魅力を推進しています。

主な大会等参加者数

単位：人（延べ数）

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
8103 ラジオ体操			中止	205	299
健康歩こう会			中止	中止	43
ロードレース大会	355	275	中止	212	249
歩け歩け大会	中止	200	中止	112	184
ENJOY スポーツ DAY	315	298	54	中止	67
合計	670	773	54	529	842

※ロードレース大会については、令和5年度よりやとみRUNフェスタに名称が変更になりました。

※令和2（2020）年度、令和3（2021）年度、の各種大会等は、新型コロナウイルス感染拡大のため多くの種目が中止となっています。

講習会・教室等参加者数

単位：人（延べ数）

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
少年少女体力づくり教室 (剣道)	14	22	中止	18	13
少年少女体力づくり教室 (空手)	8	54	中止	6	34
少年少女体力づくり教室 (柔道)	5	5	中止	3	2
合計	27	81	0	27	49

※令和2（2020）年度、令和3（2021）年度、の各種教室等は、新型コロナウイルス感染拡大のため多くの種目が中止となっています。

② 競技スポーツの推進

- 市及びスポーツ協会では、各競技のスポーツ教室の開催を通じ、新たなスポーツを始めるきっかけづくりや競技力の向上を図っています。
- 子どもたちの個々の運動能力や得意な運動スキルを見出すなど、子どもたちの可能性を高めるとともに、夢や憧れを持ち将来トップアスリートに育つ人材を発掘する目的として、スポーツフェスティバルを開催しています。
- 国際大会及び全国大会に選手として参加する激励金交付の対象となる選手を激励しています。

(3) スポーツ関連団体の状況

- 市はスポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会等の活動を支援し、スポーツの振興を図っています。
- スポーツ少年団は、スポーツ少年団員の交流や、子どもたちが多様な体験ができるように、スポーツ少年団大会、レクリエーション大会、清掃活動などを実施しています。
- スポーツ推進委員会は、弥富市内の6地区から推薦された、弥富市のスポーツ振興に努めるスポーツ推進委員で構成される組織で、ニュースポーツの普及活動や市内のスポーツ事業の振興・指導をしています。
- スポーツ協会の登録者数はコロナ禍の影響を受け大幅に減少しましたが、スポーツ少年団については、令和2年度（2020年度）に減少しているものの、ここ数年は増加傾向にあります。

団体登録者数

団 体 名		平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
スポーツ 協会	団体数(団体)	22	20	20	20	19
	競技種目数(種)	23	21	21	21	19
	登録者数(人)	2,185	2,157	2,158	2,073	1,850
スポーツ 少年団	団体数(団体)	6	5	4	4	4
	競技種目数(種)	4	4	4	4	4
	登録者数(人)	178	165	148	165	166

(4) スポーツ施設の状況

- 市民に良好なスポーツ環境を提供するため、計画的にスポーツ施設を整備しています。

施設一覧

	備 考
総合体育館	アリーナ、多目的室、剣道場、柔道場
十四山スポーツセンター	アリーナ、剣道場、柔道場、トレーニング室、会議室
テニスコート	水明テニスコート、おみよしテニスコート、子宝テニスコート、 二葉テニスコート
グラウンド	文化広場市民グラウンド、木曽川グラウンド、鍋田川グラウンド、亀の子グラウンド 八穂グラウンド、子宝グラウンド、二葉グラウンド、上野グラウンド
境港多目的広場	多目的広場
市立武道場	第一武道場（剣道場）、第二武道場（柔道場）
白鳥コミュニティセンター	多目的ホール、グラウンド、研修室、会議室
南部コミュニティセンター	多目的ホール、グラウンド、研修室、会議室
学校体育施設開放	体育館、運動場

施設利用者数

単位：人（延べ数）

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
総合体育館	72,762	63,338	38,806	36,836	48,804
十四山スポーツセンター	84,551	73,226	30,973	41,967	56,964
テニスコート	21,377	24,298	16,604	19,494	23,053
グラウンド	61,511	64,030	43,492	54,107	58,831
境港多目的広場	6,199	3,544	4,786	3,692	2,841
市立武道場	6,647	5,858	1,480	4,133	5,808
白鳥コミュニティセンター	31,424	28,664	17,409	21,270	24,197
南部コミュニティセンター	24,891	28,718	16,101	16,321	22,059
学校体育施設開放	112,270	105,587	34,093	80,875	97,059
合計	421,632	397,263	203,744	278,695	339,616

総合体育館利用者数

単位:人(延べ数)

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
アリーナ	36,916	32,325	17,298	16,553	19,208
多目的室	22,131	19,299	13,030	12,483	18,811
剣道場	7,345	6,479	4,698	4,467	6,336
柔道場	6,370	5,235	3,780	3,333	4,449
合計	72,762	63,338	38,806	36,836	48,804

十四山スポーツセンター利用者

単位:人(延べ数)

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
アリーナ	53,216	48,236	20,870	28,550	39,918
剣道場	8,046	5,014	3,166	4,443	4,754
柔道場	9,311	7,258	4,122	5,416	6,509
トレーニング室	10,702	10,014	2,202	2,933	4,720
会議室	3,276	2,704	613	625	1,063
合計	84,551	73,226	30,973	41,967	56,964

テニスコート利用者数

単位:人(延べ数)

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
水明テニスコート	7,265	6,804	4,648	4,643	6,030
おみよしテニスコート	3,206	4,092	1,787	2,624	2,353
二葉テニスコート	4,281	4,770	4,900	5,845	4,621
子宝テニスコート	6,625	8,632	5,269	6,382	10,049
合計	21,377	24,298	16,604	19,494	23,053



総合体育館アリーナ
(ENJOY スポーツ DAY)



十四山スポーツセンター
(弥富市民なぎなた大会)

グラウンド利用者数

単位:人(延べ数)

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
文化広場市民グラウンド	15,930	10,779	10,307	10,291	14,154
木曽川グラウンド	2,428	1,004	309	973	1,828
鍋田川グラウンド	12,380	5,460	5,999	8,414	7,932
亀の子グラウンド	6,304	6,500	5,055	6,544	7,249
八穂グラウンド	—	13,222	3,560	4,200	3,230
子宝グラウンド	10,773	13,064	8,372	8,900	12,214
二葉グラウンド	4,984	4,770	4,520	4,600	4,974
上野グラウンド	8,712	9,231	5,370	10,185	7,250
合計	61,511	64,030	43,492	54,107	58,831

(注) 八穂グラウンドについては、令和元年4月より利用開始

市立武道場利用者数

単位:人(延べ数)

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
第一武道場(剣道場)	3,794	3,976	911	2,218	2,464
第二武道場(柔道場)	2,853	1,882	569	1,915	3,344
合計	6,647	5,858	1,480	4,133	5,808

白鳥コミュニティセンター利用者数

単位:人(延べ数)

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
多目的ホール	18,046	15,474	10,217	12,910	15,936
グラウンド	6,794	6,382	3,291	4,327	2,834
研修室	5,478	5,597	3,126	3,361	4,550
会議室	1,106	1,211	775	672	877
合計	31,424	28,664	17,409	21,270	24,197



文化広場市民グラウンド
(サッカー教室)



おみよしテニスコート
(市民ソフトテニス大会)

南部コミュニティセンター利用者数

単位:人(延べ数)

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
多目的ホール	10,019	8,660	5,470	7,121	7,435
グラウンド	8,603	12,036	7,061	5,975	7,468
研修室	5,631	7,518	3,421	3,191	7,017
会議室	638	504	149	34	139
合計	24,891	28,718	16,101	16,321	22,059

学校体育施設開放利用者数

単位:人(延べ数)

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
体育館	66,163	68,359	16,937	48,885	58,818
運動場	46,107	37,228	17,156	31,990	38,241
合計	112,270	105,587	34,093	80,875	97,059

※ 各施設の利用者数については、令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため多くの施設で利用が制限されました。

維持・管理費

単位:千円

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
保健体育総務費	15,637	15,755	10,339	9,921	9,793
体育施設費	50,281	54,923	63,245	108,708	214,863
合計	65,918	70,678	73,584	118,629	224,656
工事費計(構成比)	8,000 (12.1%)	6,284 (8.9%)	19,649 (26.7%)	60,312 (50.8%)	172,844 (76.9%)
修繕費計(構成比)	2,137 (3.2%)	2,151 (3.0%)	2,123 (2.9%)	3,260 (2.7%)	1,735 (0.8%)

※(構成比)は合計に占める割合で、小数点第二位を四捨五入

主な施設でのスポーツ事業

	スポーツ事業
総合体育館	YATOMI スポーツフェスティバル
十四山スポーツセンター	わかしゃちなぎなた交歓会
文化広場市民グラウンド	弥富市軟式野球大会
子宝グラウンド	やとみ RUN フェスタ
水明・おみよしテニスコート	ミックスダブルステニス大会・ソフトテニス大会

2. アンケート調査結果からみる現状

(1) アンケート調査の実施

スポーツに対する意識やスポーツの実施状況、ニーズ等を把握するために、アンケート調査を実施しました。

実施概要

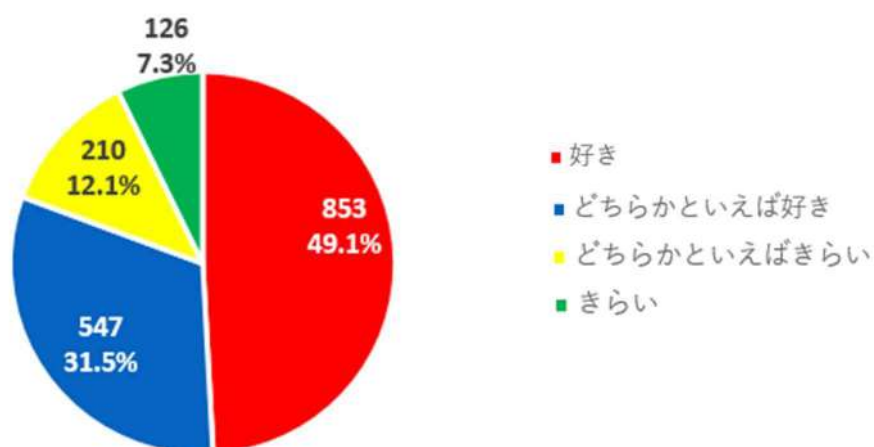
区分	①小学生調査	②中学生調査	③保護者調査
調査対象者	市内小学生 5・6年生	市内中学生 1・2・3年生	市内小中学生 小5～中3までの保護者
調査方法	学校配布 Web 回答	学校配布 Web 回答	学校配布 Web 回答
調査期間	令和5年(2023年)7月1日～9月30日		
配布数	738 件	1,162 件	1,900 件
回答件数	679 件	1,057 件	401 件
回答率	92.0%	91.0%	21.1%



(2) スポーツに対する意識

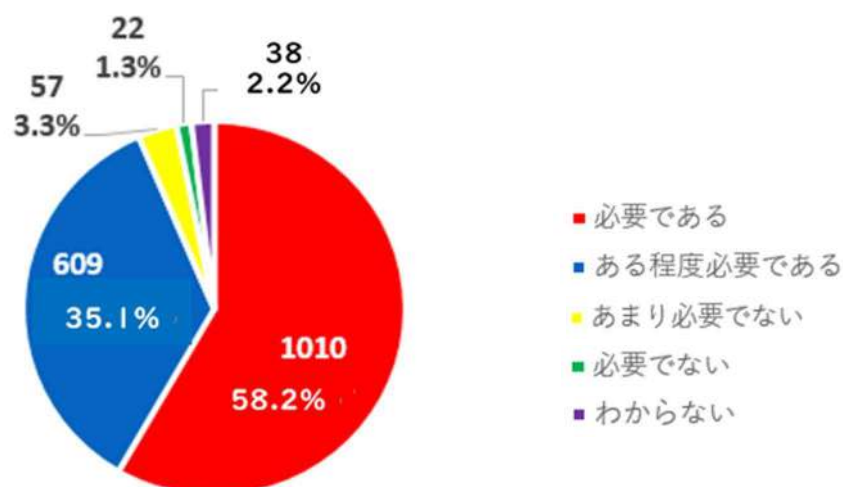
- スポーツで体を動かすことが好きな割合は、小中学生対象では、「好き」が 49.1%と最も高く、次いで、「どちらかといえば好き」が 31.5%、「どちらかといえば嫌い」が 12.1%、「嫌い」が 7.3%となっており、「好き」+「どちらかといえば好き」については 80.6%が『好き』と回答しています。

小中学生対象 1,736 件の回答



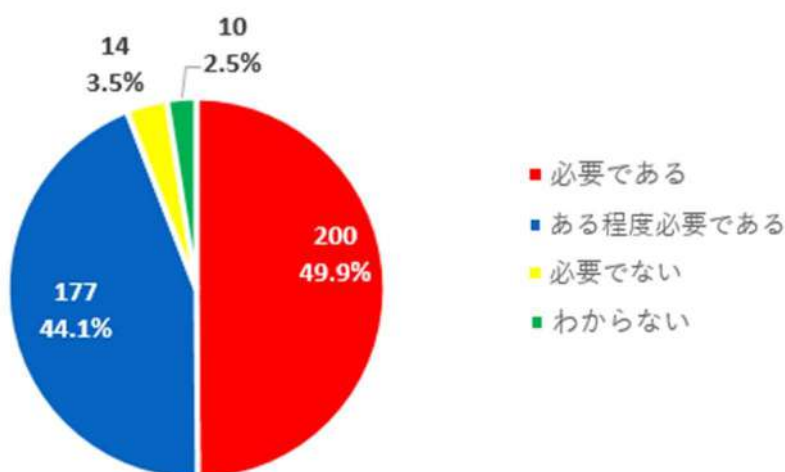
- スポーツや運動について必要だと思う割合は、小中学生対象では、「必要である」が 58.2%と最も高く、次いで、「ある程度必要である」が 35.1%、「あまり必要でない」が 3.3%、「必要でない」が 1.3%、「わからない」が 2.2%となっており、「必要である」+「ある程度必要である」については 93.3%が『必要である』と回答しています。

小中学生対象 1,736 の件回答



- あなたのお子様にとってスポーツや運動全般（実施だけでなく、観戦・支援・スポーツイベントの開催を含む）について必要と思う割合は、保護者対象では、「必要である」が 49.9%と最も高く、次いで、「ある程度必要である」が 44.1%、「必要でない」が 3.5%、「わからない」が 2.5%となっており、「必要である」+「ある程度必要である」については 94.0%が『必要である』となっています。

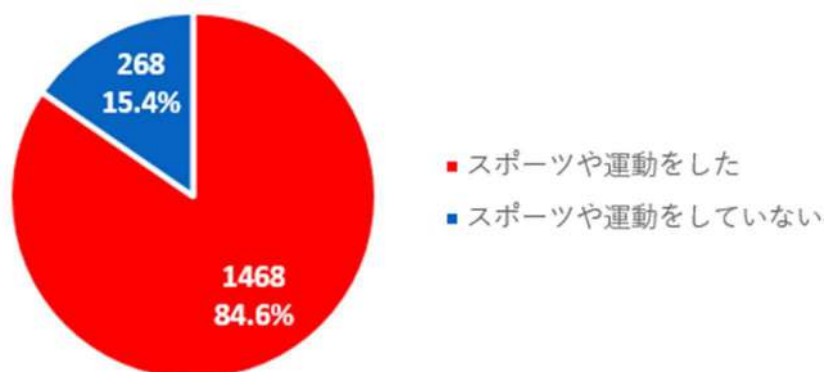
保護者対象 401 件の回答



(3) この1年間のスポーツの実施状況

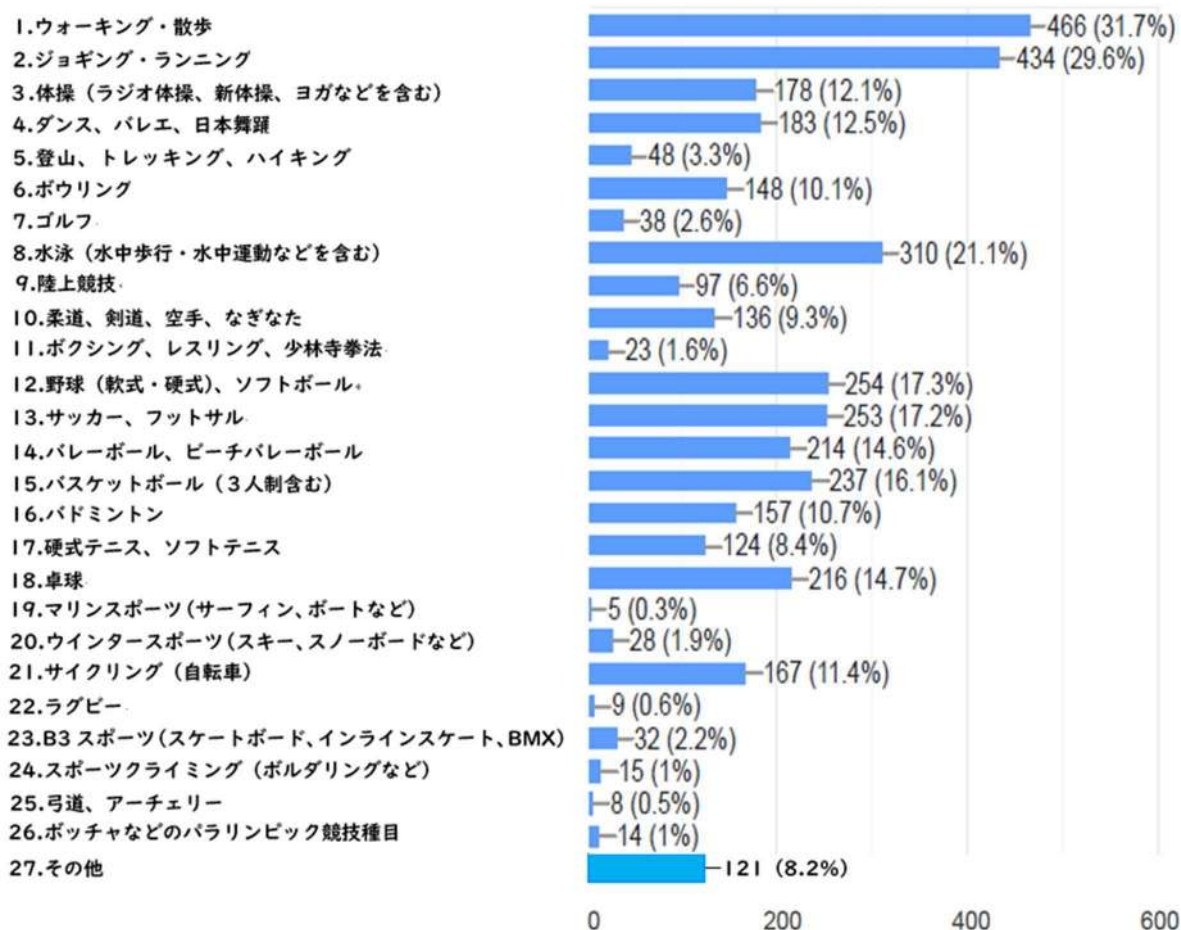
- これまでの1年間に体育の授業以外でスポーツや運動をした割合は、小中学生対象では、「スポーツや運動をした」が 84.6%、「スポーツや運動をしていない」が 15.4%となっています。

小中学生対象 1,736 件の回答



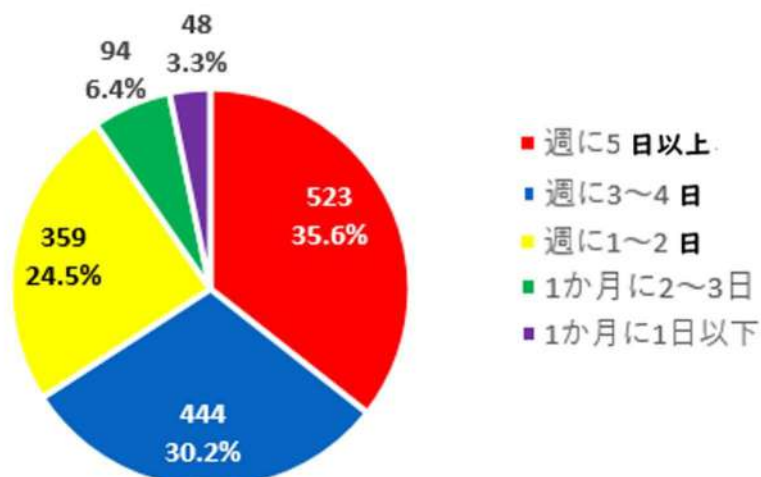
- 体育の授業以外でしているスポーツや運動の割合については、小中学生対象では、「ウォーキング・散歩」が最も高く、次に「ジョギング・ランニング」、「水泳（水中歩行・水中運動などを含む）」が高くなっています。

小中学生対象 1,468 件の回答



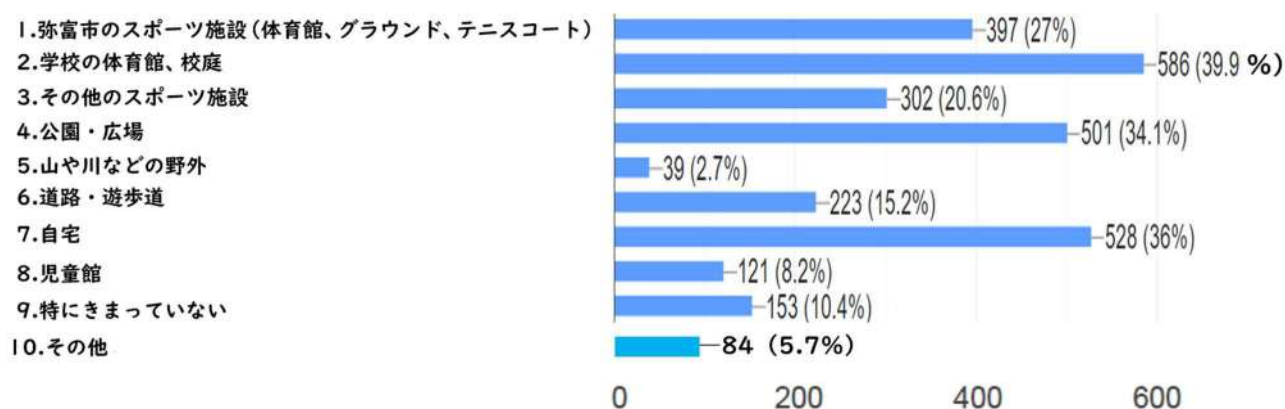
●体育の授業以外でスポーツや運動をしている日数の割合については、小中学生対象では、「週に5日以上」が35.6%と最も高く、次に「週に3～4日」が30.2%、「週に1～2日」が24.5%と回答しています。

小中学生対象 1,468 件の回答



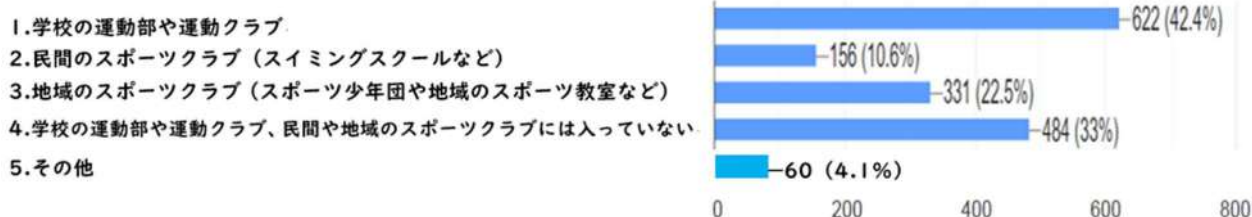
●スポーツや運動を主にしている場所については、小中学生対象では、「学校の体育館、校庭」が最も高く、次に「自宅」、「公園・広場」、「弥富市のスポーツ施設（体育館、グラウンド、テニスコート）」と回答しています。

小中学生対象 1,468 件の回答



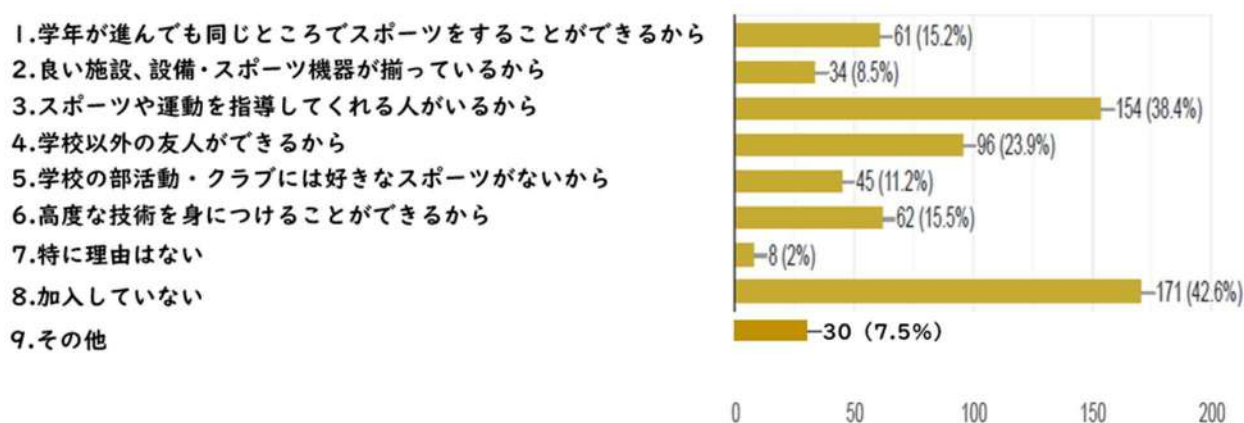
●学校の運動部や運動クラブ、民間のスポーツクラブ、地域のスポーツクラブ（スポーツ少年団や地域のスポーツ教室など）の加入の有無については、小中学生対象では、「学校の運動部や運動クラブ」が最も高く、次に「学校の運動部や運動クラブ、民間や地域のスポーツクラブには入っていない」、「地域のスポーツクラブ（スポーツ少年団や地域のスポーツ教室など）」「民間のスポーツクラブ（スイミングスクールなど）」と回答しています。

小中学生対象 1,468 件の回答



●学校以外のスポーツクラブに加入している理由については、保護者対象では、「スポーツや運動を指導してくれる人がいるから」が最も高く、次に「学校以外の友人ができるから」、「高度な技術を身につけることができるから」、「学年が進んでも同じところでスポーツをすることができるから」と回答しています。

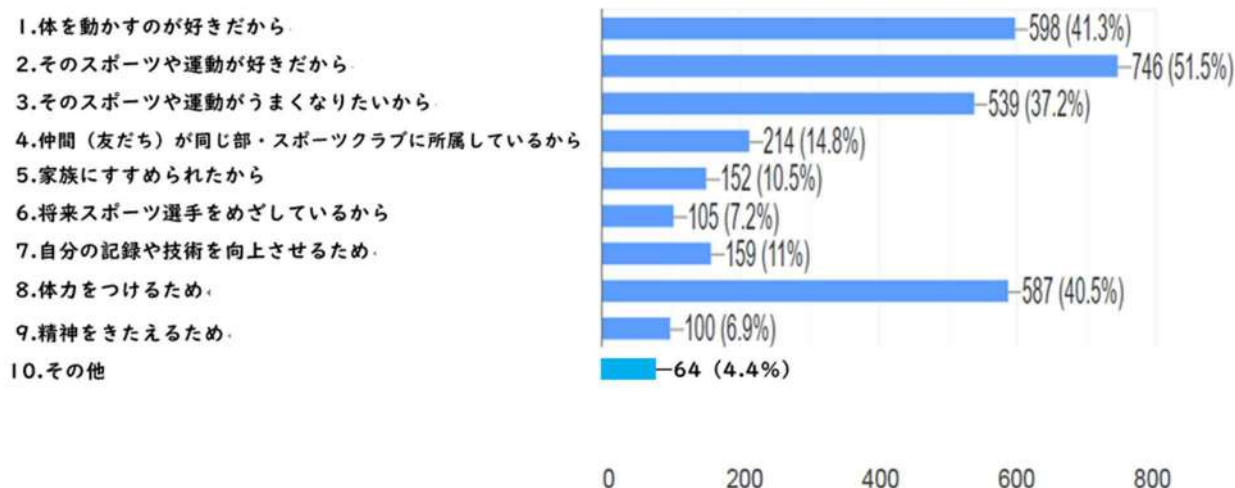
保護者対象 401 件の回答



(4) スポーツや運動をしている・していない理由

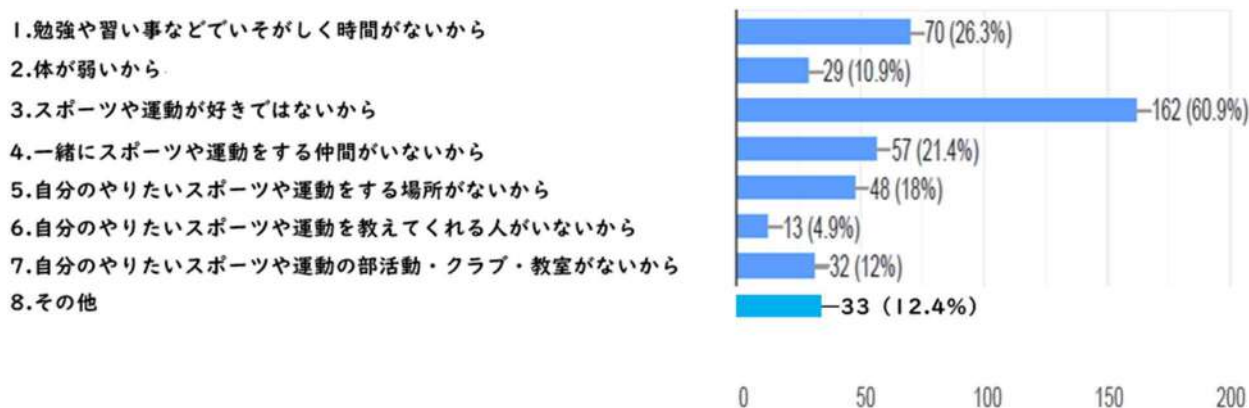
●スポーツや運動をしている理由については、小中学生対象では、「そのスポーツや運動が好きだから」が最も高く、次に「体を動かすのが好きだから」、「体力をつけるため」、「そのスポーツや運動がうまくなりたいから」が高くなっています。

小中学生対象 1,449 の件回答



●スポーツや運動をしていない理由については、小中学生対象では、「スポーツや運動が好きではないから」が最も高く、次に「勉強や習い事などでいそがしく時間がないから」、「一緒にスポーツや運動をする仲間がいないから」、「自分のやりたいスポーツや運動をする場所がないから」と回答しています。

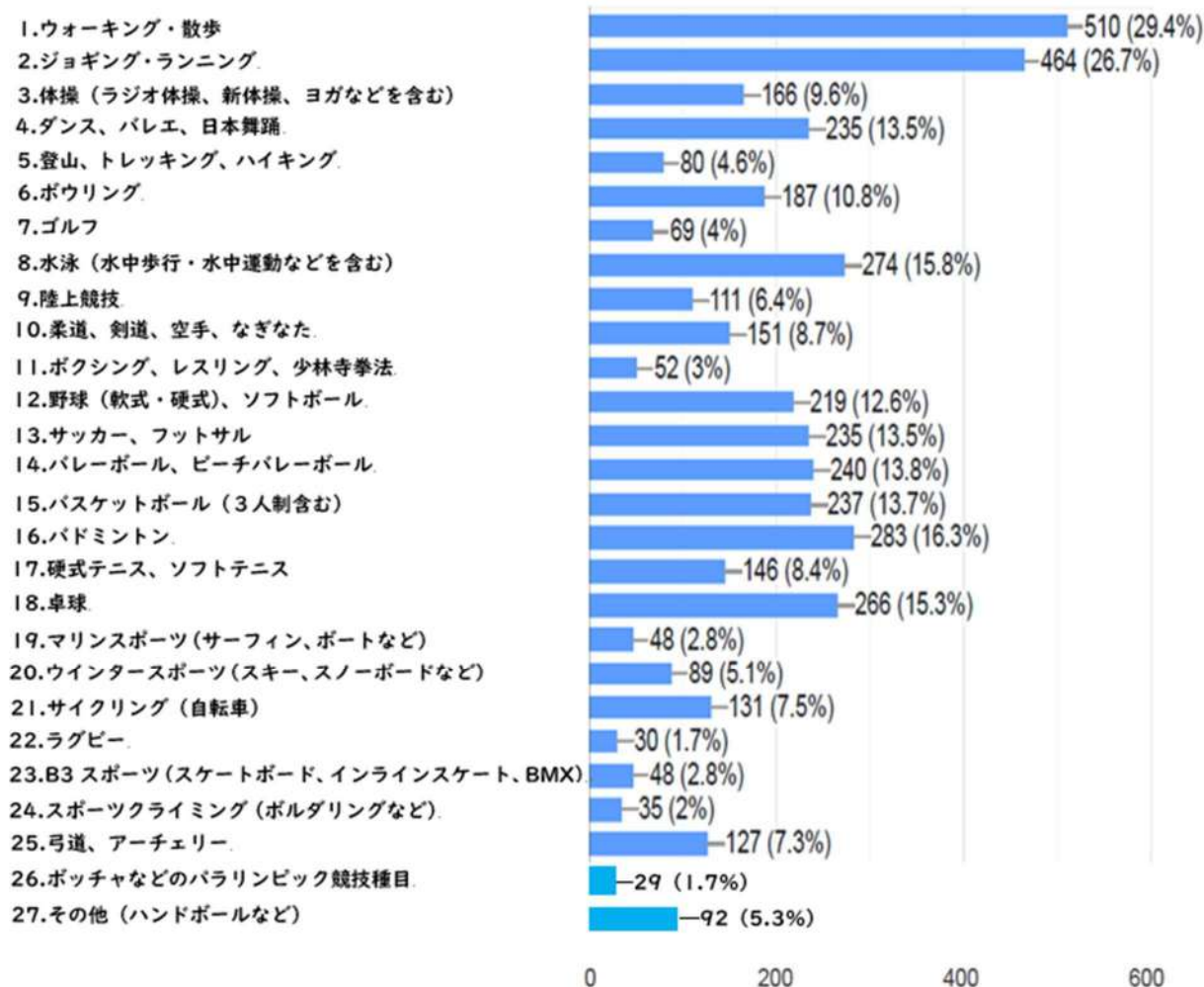
小中学生対象 266 件の回答



(5) 新しく始めたいスポーツや運動

●新しく始めたい、これからも続けていきたいスポーツや運動については、小中学生対象では、「ウォーキング・散歩」が最も高く、次に「ジョギング・ランニング」、「バドミントン」、「水泳（水中歩行・水中運動などを含む）」、「卓球」などが高くなっています。

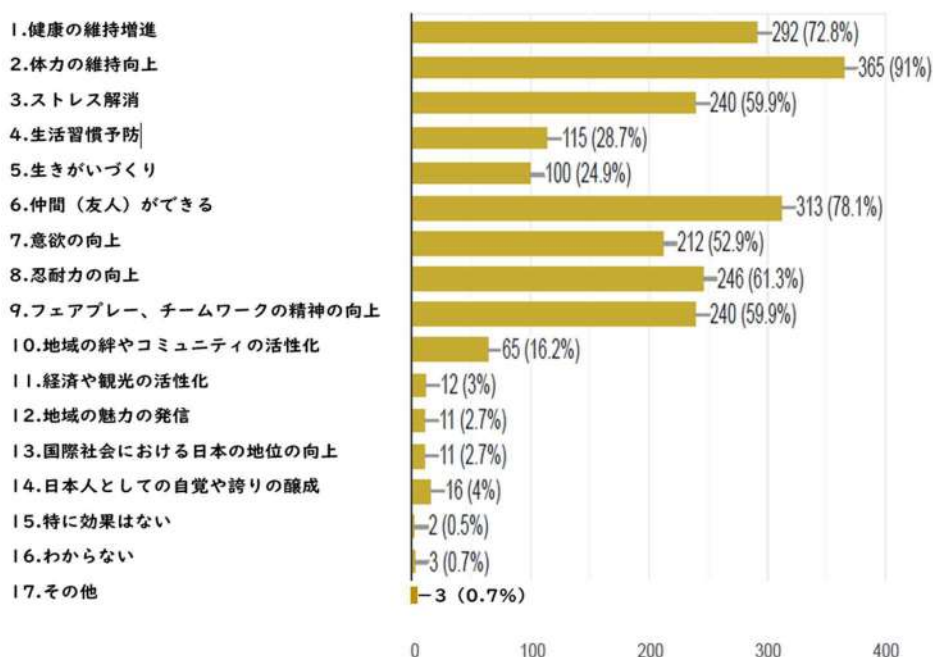
小中学生対象 1,736 件の回答



(6) スポーツや運動がもたらす効果

●あなたのお子様にとってスポーツや運動がもたらす効果については、「体力の維持向上」が最も高く、次に、「仲間（友人）ができる」、「健康の維持増進」、「忍耐力の向上」が高くなっています。

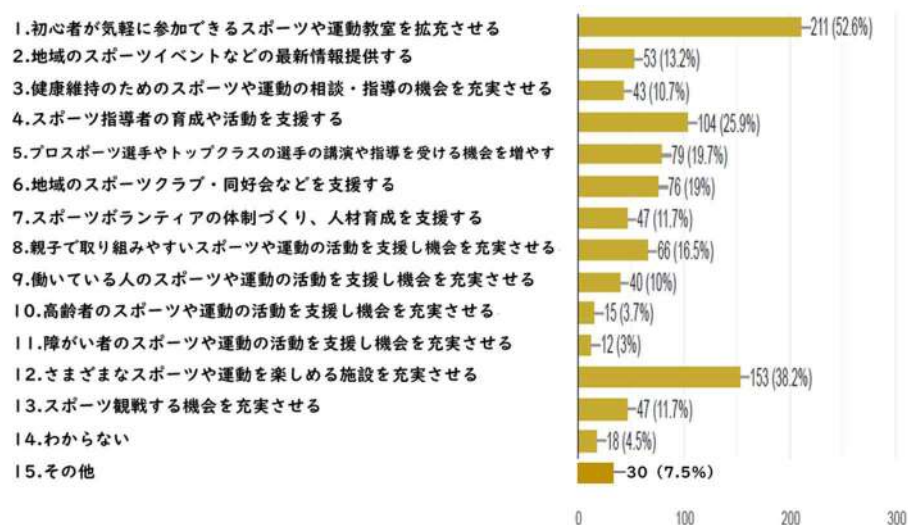
保護者対象 401 件の回答



(7) スポーツ活動をより盛んにするための方策

●スポーツ活動をより盛んにするためには、どのような方策を実施することが必要だと思うかについて、保護者対象では、「初心者が気軽に参加できるスポーツや運動教室を充実させる」が最も高く、次に「さまざまなスポーツや運動を楽しめる施設を充実させる」、「スポーツ指導者の育成や活動を支援する」が高くなっています。

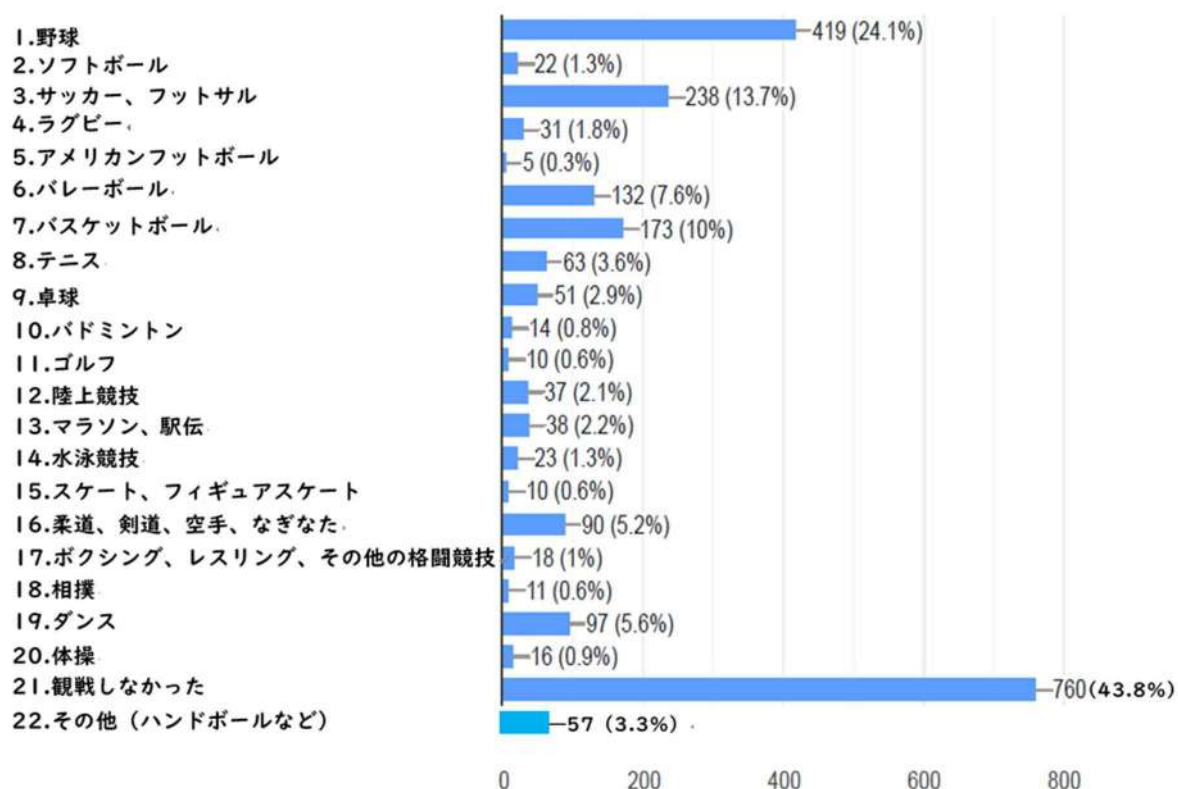
保護者対象 401 件の回答



(8) スポーツ観戦に対する意識

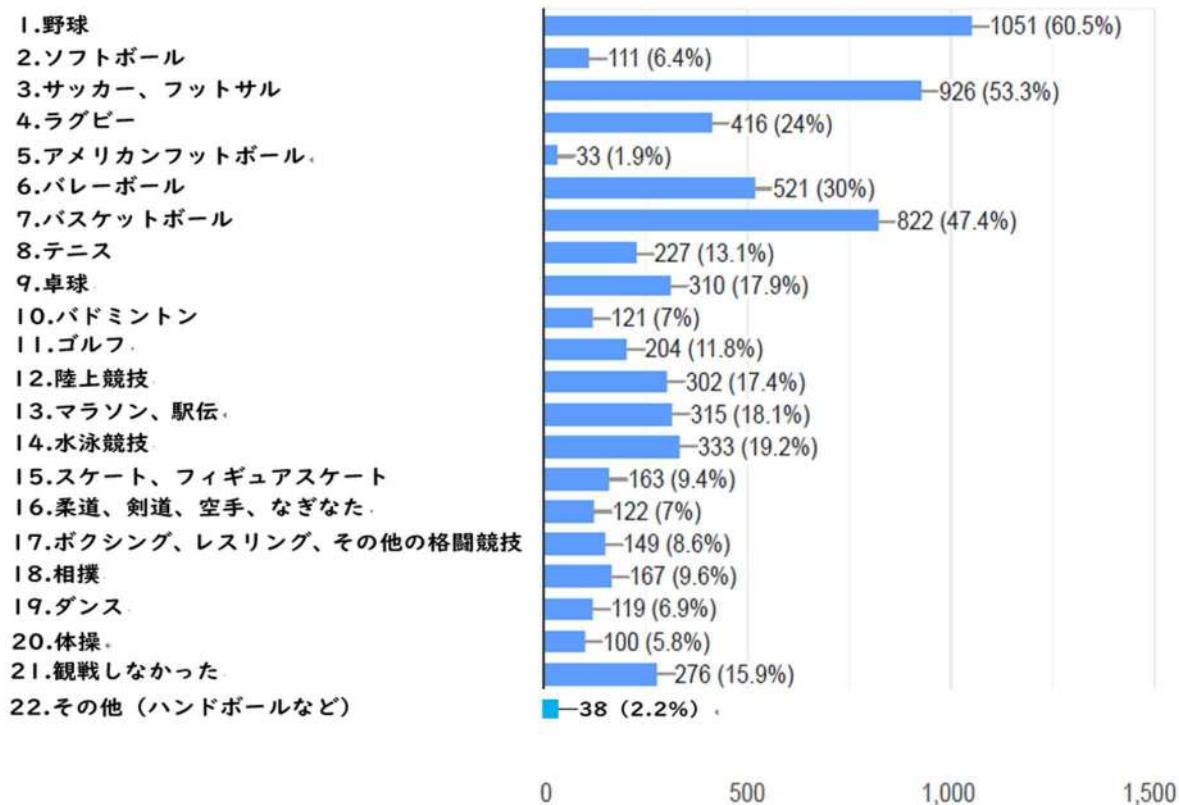
- この 1 年間にスタジアム・体育館・沿道などでのスポーツ観戦について、小中学生対象では、「観戦しなかった」が最も高く、次に、「野球」、「サッカー、フットサル」、「バスケットボール」と回答しています。

小中学生対象 1,736 件の回答



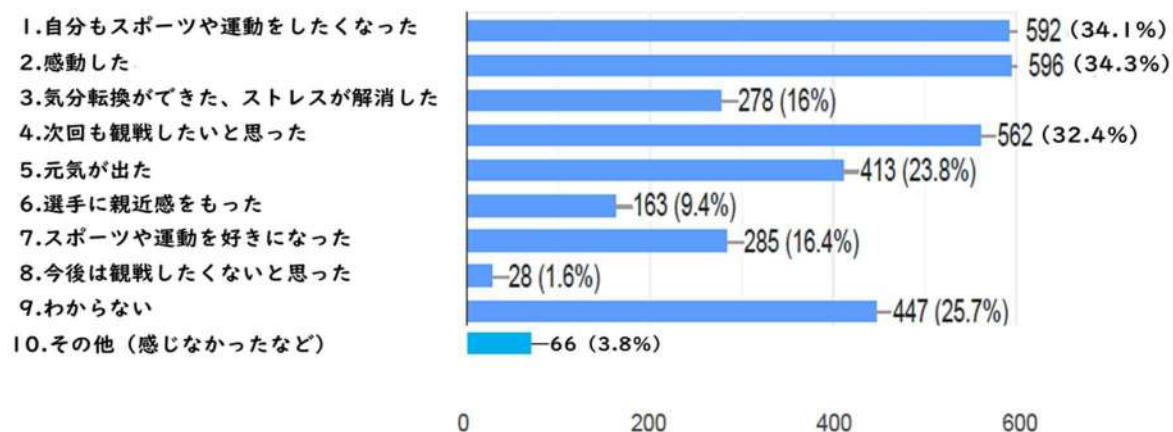
- この１年間にテレビ・ラジオ・インターネット配信などのスポーツ観戦について、小中学生対象では、「野球」が最も高く、次に、「サッカー、フットサル」、「バスケットボール」、「バレーボール」と回答しています。

小中学生対象 1,736 件の回答



- スポーツ観戦をしてどのようなことを感じたかについて、小中学生対象では、「感動した」が最も高く、次に、「自分もスポーツや運動をしたくなった」、「次回も観戦したいと思った」、「元気が出た」、「スポーツや運動を好きになった」と回答しています。

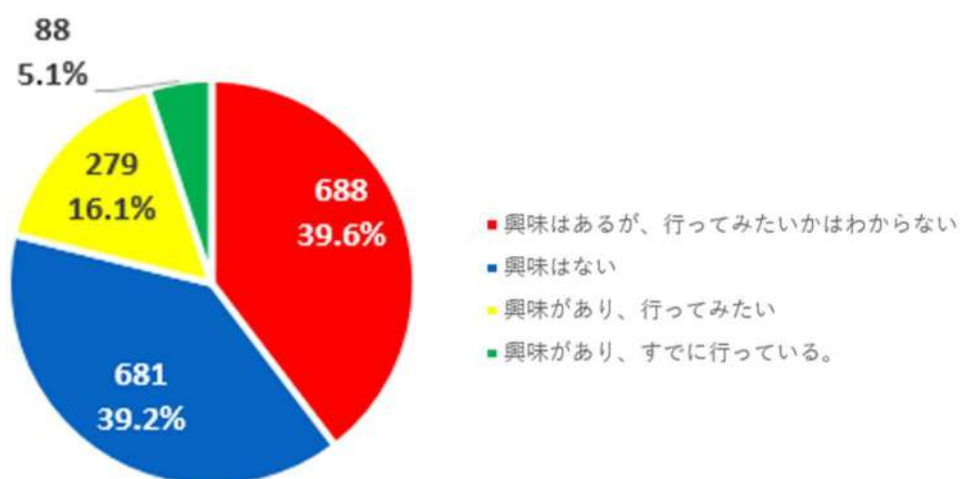
小中学生対象 1,736 件の回答



(9) スポーツ活動を支えるボランティア活動

●スポーツ活動を支えるボランティア活動の興味について、小中学生対象では、「興味はあるが、行ってみたいかはわからない」が 39.6%と最も高く、次に、「興味はない」が 39.2%、「興味があり、行ってみたい」が 16.1%、「興味があり、すでに行っている」が 5.1%となっています。

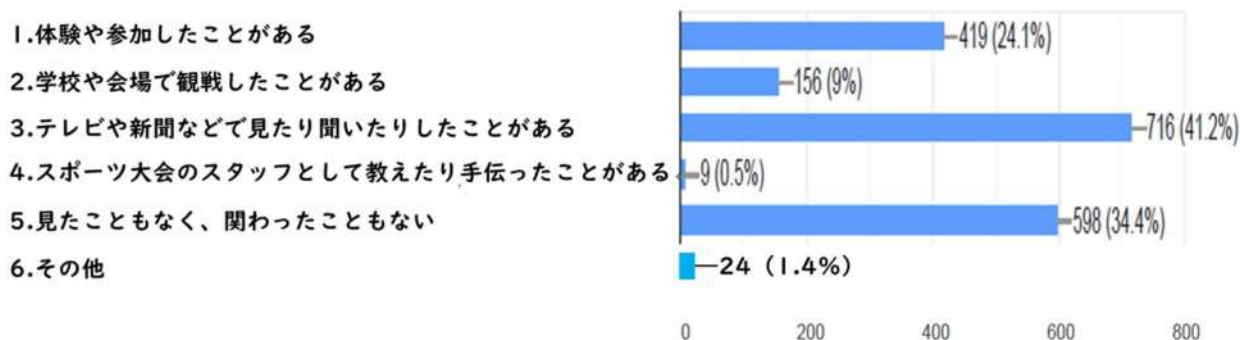
小中学生対象 1,736 件回答



(10) 障がい者が行うスポーツ

●障がい者が行うスポーツに関して自身の経験について、小中学生対象では、「テレビや新聞などで見たり聞いたりしたことがある」が最も高く、次に、「見たこともなく、関わったこともない」、「体験や参加したことがある」、「学校や会場で観戦したことがある」と回答しています。

小中学生対象 1,736 件の回答



(11) 市のスポーツ振興施策に関する意見や要望について(保護者対象) ※自由意見から抜粋

- 市のスポーツ振興施策に関する自由意見では、「スポーツ施設や設備の充実」に関する意見や、「施設・教室の申し込み、利用環境」、「中学校部活動の地域移行」、「スポーツクラブ・スポーツ少年団」に関する意見が多くあがっています。

【スポーツ施設の充実について】

- ・ 弥富市のプールを復活させてほしい。テニスコートの整備(福祉センター)
- ・ 市営プールの設置。陸上競技場の設置
- ・ 団体ではなく少人数でバドミントン等屋内スポーツができる施設があるとよい。
- ・ 体に負担がかかりにくい水泳は全年代に受け入れやすいスポーツの一つだと考えます。また水害時に生きのびるという観点においても水に慣れておくことは重要だと思います。しかし弥富市内には水泳施設がありません。屋内プールを作っていただきたいと思う反面プールは維持管理が非常に高額になることを考えると簡単な話ではないなと認識しております。なので健康増進、災害対策の一環として既存の民間施設と連携して補助金で安く通えるような仕組みがあればいいなと思います。

【スポーツ設備の充実について】

- ・ 弥富市も市のスポーツセンターや体育館には冷房を完備して頂けるとより活動しやすく、色々充実させることが可能かと思います。
- ・ 体育館並びにグラウンド設備の充実。これからの時代は冷房がないと夏の活動はできないことが多くなると思う。

【施設・教室の申し込み、利用環境について】

- ・ 個人でも体育館が借りたい。
- ・ スポーツ施設を誰でも簡単に借りれたら良いと思います。
- ・ 白鳥コミを利用したスポーツクラブがあるが、夜 19 時から 21 時までなど遅い時間帯であり、子供対象には利用しにくい。夕方の時間帯があるといい。またダンスやアスレチックなど、子どもが興味をひく種類があるとありがたい。
- ・ スポーツ団体がたくさんあるのは良いが、場所(体育館等)の確保が難しくなる。
- ・ 発達障害、軽度知的障害のある子供と共に安心して通えるスポーツ教室があると嬉しいです。
- ・ 年間を通じて低料金で参加できる短期間のスポーツ教室の開催をしてほしい。対象者をはっきりさせ社会人、子供とターゲットを絞った企画をしてほしい。
- ・ 弥富市の陸上教室に予定があれば行かせてます。本人が行きたいと言ってます。家計が厳しいので無料で教えてもらえるのはとてもありがたいです。9 月は教室の日数が少なかったの増やして欲しいです。

- ・ もっと気軽に体育館や児童クラブも開放して、休日でも行き易くして欲しい。
- ・ 小学生は部活がないので自分で調べて探してくるしかありません。市で広報などに一覧を載せるなど探しやすい環境があると助かります。
- ・ 健康増進のため、高齢者も気軽にスポーツに参加できる機会が増えるとありがたいです。

【中学校部活動の地域移行について】

- ・ 中学校の部活を外部委託でもいいので続けさせて欲しい。
- ・ 中学校の部活動にもっと力を入れてほしい。外部のコーチを頼む。練習時間が短いので練習できない。土日練習しづらいなど、規制がありすぎ。
- ・ 学校の中でスポーツ、部活をやって欲しいと思っています。
- ・ 中学生の部活動縮小の中、地域での活動、指導者の確保を強く望みます。
- ・ 中学の部活動を外部に委託するのなら、どの部活も公平に指導者がついてもらえるようにして欲しい。学校の先生の負担になっているのは分かるので、うまく外部コーチについてもらえるといいなと思います。
- ・ 今までの部活のような活動でないと結局共働きにはハードルが高い。学校でそのまま活動できるようなやり方を考えてほしい。活動はさせたいと思っています。
- ・ 小学校、中学校へのスポーツ指導者を配属し、教職員の方々の負担を軽減してほしい。働き方改革により、子ども達のスポーツの機会や活動が制限されるべきではない。そのために、指導者の採用や育成に力を入れて頂きたいです。
- ・ 小学校は部活もなくなり、中学校でも部活動の時間も少なくなり、子どもが運動する機会が減っています。小学校中学生ともに運動会は午前中。勉強が苦手でも運動会やマラソン大会などで活躍できる場所があると子どもの自信もつくと思います。体力がなくなれば全てのことに意欲も減ってきてしまいます。是非子どもたちには身体を動かす楽しみをわかってほしい。ともだちと分かち合ってもらえたらと思います。
- ・ 部活の地域への移行が曖昧だったため、また、部活では活動時間や機会が足りないため、部活の代わりにクラブチームに入りました。部活の代わりなので、それほど強いチームではなく、内申の課外活動に記載できるほどの成績はありません。部活には入っていないため、内申の部活の欄が空欄になり、高校入試で不利になるのではないかと不安です。
- ・ 学校のクラブ活動(ここではスポーツのクラブに限って申し上げます)について、個人的な勝手な思いですが…働き方改革、子供の減少などによってクラブ活動が縮小されることは致し方ないと理解したうえで、それでも、子供達の体の発育、心の成長にスポーツは不可欠なものだと考えます。学校以外の所でスポーツに接することが、貧困による金銭的な負担、共働きにより送迎が出来ない、移動手段がないなど環境的に困難な子供達が増えていると思います。そういった子供達が置き去りにされずに、どの子も等しくスポーツに接し、学べる環境を整えていけたらいいな、と願います。外部指導者がいないという問題には、雇用する予算がない、ボランティアでは足りない、ということが考えられますが、例えば弥富市の企業と

タイアップするなど、柔軟な発想で補えないか…何か方法はあるのではないか、と思ったりしています。

- ・ 小学校の部活動を復活させてほしい。中学校の部活が無くなるという噂をきいたが、絶対やめてほしい。
- ・ 小学校で部活がなくなり、地域移行へととなっているが、特に何か変わった感じは感じられない。このままでは運動をする、しない子ども達の二極化が著しくなると思う。また、市から地域スポーツの指導者への支援を手厚くしていただけるとありがたいと思う。今はボランティアでコーチが見てくれているが、毎週末子ども達のために大変ではないかと感じている。多くの子どもがお世話になっているので、指導者がボランティアではなく、市から金銭的にコーチへ支援してもらえると指導者が増え、よりよい指導が受けられるのではないかと思う。施設面では市の施設を使わせてもらっており、大変ありがたいです。

【スポーツクラブ・スポーツ少年団について】

- ・ スポ少に所属していますが、親の負担が大きく、また親が出れないと肩身の狭い思いをするため、こういった団体に経験者の方を支援派遣してもらえるような団体があると助かる。スポ少なのに勝ちだけにこだわるクラブチーム？と疑問を感じることも多々あり。
- ・ スポーツクラブ等への金銭的、技術的支援をお願いします。維持が難しくなると思います。
- ・ 弥富市にはスポーツ少年団があり、それなりに充実していると思うが、スポーツ少年団は監督の考え方などでついていけない家庭もある。ハードルが高く感じてしまっている人も多く見受けられるのでもっと気軽に参加できるしくみのものがあると良いと思う。
- ・ 弥富市のスポーツクラブに入っている時はコロナでたびたび中止になる事があった。コーチは親切で楽しく通っていたので、人数は少なくとも今後もできる限り続けて欲しいです。

3. 弥富市の現状と課題のまとめ

(1) スポーツ習慣の定着化

スポーツは健康づくりや体力の維持向上を図ることに加え、生きがいづくりや仲間づくりにもつながります。

また、人生100年時代といわれる中、健康寿命の延伸や社会保障費の抑制といった観点からも、スポーツによる日常的な健康づくりが重要になっていますが、より多くの市民がスポーツに親しむことができるよう、子どもから高齢者まで、「いつでも、どこでも、いつまでも」気軽に参加できるニュースポーツの推進など、スポーツ習慣の定着化を図ることが必要になっています。

また、障がいのある人もスポーツを気軽に楽しむことができるよう、スポーツ施設のバリアフリー化や参加のしやすさに配慮した活動の充実を図るとともに、広く情報発信を行うことも求められます。



第3章「基本目標 1 スポーツに親しむ機会の創出」で対応

(2) 競技スポーツの推進

本市では、スポーツ協会、スポーツ少年団が幅広い競技分野の取組を行っていますが、生活の多様化、スポーツの多様化等によりスポーツ協会への若年者の加入が少なく、会員数は減少傾向にあります。

また、指導者不足や指導者・審判員の高齢化、運営役員のなり手不足など、競技スポーツをささえる人材の確保・育成も大きな課題となっており、スポーツ協会、スポーツ少年団がより強固な組織となるよう、支援を行っていくことが求められます。



第3章「基本目標 1 スポーツに親しむ機会の創出」で対応

(3) ウイズコロナ・ポストコロナの社会におけるスポーツ活動

令和元年度(2019年度)末から流行が始まった新型コロナウイルス感染症は、これまでの生活様式やスポーツ環境を一変させ、感染症拡大防止の観点から、スポーツイベントや各種大会の中止や延期、参加人数の縮小、体育館などスポーツ施設の利用中止、開館時間の短縮などを余儀なくされました。

ウィズコロナ・ポストコロナの社会においても、感染症対策に留意し、気軽にスポーツに親しむことができるよう、各種スポーツ教室やイベントなど新しい楽しみ方を検討し、普及していくことが求められます。



第3章「基本目標 1 スポーツに親しむ機会の創出」で対応

第3章「基本目標 3 スポーツを通じたまちの魅力の創造」で対応

(4) 子どものスポーツの場の確保

令和2年(2020年)9月に文部科学省より「中学校の休日の部活動の段階的な地域移行」が示され、令和4年(2022年)12月に策定された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」においては、地域の実情に応じて可能な限り早期に段階的な移行を行うこととされています。

本市では中学校部活動の選択制への移行に加え、学校外の学習時間の増加等により、子どもたちがスポーツをする機会が減少していますが、スポーツの機会の減少は、身体面の発達や運動能力の発達だけでなく、精神面にも影響を与えます。また、生涯スポーツの推進には、子どもの頃からスポーツ習慣を身につけることが非常に大切となるため、子どもたちが充実した環境でスポーツに親しむことができるよう、取組を進めていく必要があります。



第3章「基本目標 1 スポーツに親しむ機会の創出」で対応

(5) スポーツ施設の充実

本市では、総合社会教育センターをはじめ、グラウンドや文化広場、テニスコートなど、屋内・屋外でスポーツを行える場を整備しており、総合体育館アリーナについては、令和5年(2023年)9月に大規模リニューアルを実施したところですが、市民アンケート調査や団体ヒアリングの結果では施設・設備の充実に関する意見が多くあがっています。本市においても公共施設を適正に管理していくため、公共施設マネジメント基本方針を定め、機能や配置の適正化や集約化、複合化による施設量の適正化と効率的な運営による将来負担の抑制を図っています。

この公共施設の集約化、複合化には小中学校の統廃合も見込まれていますが、本市のスポーツ施設利用者の約4分の1が学校体育施設開放事業による学校施設の利用となっています。また、総合社会教育センター及び文化広場の各競技場の稼働率は平日の夜間、休日の日中で9割程度と、利用者にとって非常に予約がとりづらい状況にあることから、スポーツ施設の充実は大きな課題となっています。

また、施設の利用環境に対する意見も多くなっており、社会教育施設の利用基準の見直しなどを進めていく必要があります。



第3章「基本目標 2 スポーツをとりまく環境の充実」で対応

(6) 地域資源を生かしたスポーツの推進

国においてもスポーツツーリズム*の更なる推進が目指されており、本市では、弥富の豊かな資源を生かしきれていないといった課題があるため、スポーツ施設を有効に活用していく必要があります。そのため、スポーツツーリズムの推進だけでなく、弥富の地域資源を生かしたスポーツ施策の展開を図っていくことが求められます。



第3章「基本目標 1 スポーツに親しむ機会の創出」で対応

第3章「基本目標 3 スポーツを通じたまちの魅力の創造」で対応

第 2 章 計画の基本的な考え方

1. 基本理念

計画の基本理念

気軽に!! 楽しく!! はじめよう!! スポーツ in やとみ

～ スポーツで みんな明るく 元気な弥富 ～

スポーツは、私たちが心身ともに健康で豊かな生活を過ごすために欠かせないものであるだけでなく、スポーツを通じた交流の活性化を図ることは、活力に満ちたまちづくりにつながります。

しかしながら本市では、成人のスポーツ実施率が低いということが大きな課題となっています。本計画の基本理念として「気軽に!! 楽しく!! はじめよう!! 」という合言葉を掲げていますが、市民一人一人がスポーツを気軽に楽しくはじめることができるよう、スポーツ施策の推進を図ります。また、本市の最上位計画である第 2 次弥富市総合計画では、『地域でつくる「人・自然・文化」の調和 輝く未来へ繋ぐまち・弥富』を将来の都市像として掲げ、こういったまちの魅力を生かして、笑顔あふれるまちづくりを目指しています。

だれもがスポーツに親しむことができ、健康でこころ豊かに過ごすことができるよう、「弥富らしい」スポーツライフの推進とスポーツ環境の整備を図ります。



健康歩こう会

2. 基本目標

基本理念の実現に向けて、スポーツを「する」「みる」「ささえる」、スポーツで「つながる」の視点から、以下の基本目標を設定し、各基本目標に基づいた施策を推進します。

【基本目標 1】 スポーツに親しむ機会の創出

～ スポーツを「する」「みる」～

体力や障がいの有無に関わらず、子どもから高齢者まであらゆる世代の人が、生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、スポーツをする機会、みる機会の充実を図ります。

また、子どもの頃から様々なスポーツにふれることができる機会の提供やスポーツを通じた健康づくりの推進、次代のアスリートの育成支援など、幅広く取り組みます。

【基本目標 2】 スポーツをとりまく環境の充実

～ スポーツを「ささえる」～

スポーツに親しむことができる環境を整備するためには、市民が安全・安心にスポーツに取り組める環境づくりとスポーツ指導者、ボランティアをはじめとした多くの人材の協力が重要になるため、スポーツ協会等と協力しながら担い手の確保に取り組みます。

本市では引き続き施設の維持・管理に取り組むとともに、時代に即した機能の整備を進める等、施設利用基準の緩和などについても取組を推進していきます。

【基本目標 3】 スポーツを通じたまちの魅力の創造

～ スポーツで「つながる」～

これまでスポーツに関心のなかった人がスポーツにかかわるきっかけづくりを行うとともに、本市の魅力を生かしたスポーツ大会の開催などの取組を広く発信することで、地域活性化につなげます。



3. 施策体系

基本理念

気軽に!! 楽しく!! はじめよう!! スポーツ in やとみ

～ スポーツで みんな明るく 元気な弥富 ～

基本目標	施策の方向	施策
基本目標1 スポーツに親しむ 機会の創出 スポーツを 「する」「みる」	▶ 1.スポーツの楽しさや魅力 の発信	①スポーツに関する情報発信 ②スポーツにふれる機会の創出
	▶ 2.生涯スポーツの推進	①スポーツに親しむ機会の提供 ②子どものスポーツ活動の推進 ③高齢者や障がいのある人の スポーツ活動の推進 ④スポーツによる健康づくりの 推進
	▶ 3.競技スポーツの推進	①競技力の向上 ②競技選手の育成・支援
基本目標2 スポーツをとりまく 環境の充実 スポーツを 「ささえる」	▶ 1.スポーツ環境の整備・ 充実	①スポーツ施設の整備・充実 ②スポーツ施設の有効活用 ③総合型地域スポーツクラブの 支援
	▶ 2.スポーツをささえる人材 の育成	①指導者・ボランティアの育成 ②スポーツ関連団体への支援
基本目標3 スポーツを通じた まちの魅力の創造 スポーツで 「つながる」	▶ 1.スポーツを通じた交流の 促進	①スポーツイベント・大会などの 誘致 ②スポーツを通じた仲間づくりの 支援

第3章 施策の展開

基本目標Ⅰ

スポーツに親しむ機会の創出
～ スポーツを「する」「みる」～

Ⅰ

スポーツの楽しさや魅力の発信

施策① スポーツに関する情報発信

市で行うスポーツイベントやスポーツ関連団体の情報をはじめ、市内のスポーツ施設やウォーキングコースなど、スポーツに関する様々な情報を積極的に発信するなど、幅広い年代に情報が行き渡るよう、SNS等の活用をはじめ、より効果的な方策を検討していきます。

主な取組	担当課
SNS、広報やとみ、ホームページ等を活用した情報発信	生涯学習課
団体紹介の情報発信	生涯学習課
魅力的なウォーキングコース等の周知	産業振興課

施策② スポーツにふれる機会の創出

活動的な生活を送る基盤となる体力を養うために運動を習慣化することは、とても大切です。様々なスポーツに触れることで基礎運動能力が高まり、運動が楽しくなり継続し習慣化する循環が生まれます。このように、様々な競技に触れ運動能力が向上するよう、スポーツ講演会やスポーツ講習会の開催をし、子どもから大人まであらゆる世代の人がスポーツに触れる機会の創出に取り組みます。

主な取組	担当課
スポーツ講演会やスポーツ講習会の開催	生涯学習課

施策① スポーツに親しむ機会の提供

本市では、だれもが気軽に楽しくスポーツをはじめることができるよう、市民ニーズに応じた魅力あるスポーツイベントを開催します。

弥富の魅力を生かしたイベント等を積極的に開催し、市民がスポーツに親しむきっかけづくりを行います。

また、令和8年（2026年）に開催が予定されている、第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会をきっかけに、市民のスポーツへの関心も高まってくることが期待されるため、スポーツに関する情報を積極的に発信します。

主な取組	担当課
スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験会の開催	生涯学習課
ウォーキングの推進	生涯学習課 産業振興課
各種スポーツ大会の開催・支援	生涯学習課



スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験会



健康歩こう会

施策② 子どものスポーツ活動の推進

子どもの時期にスポーツを行うことは、身体の成長・発達に必要な体力や筋力、運動能力を高めるだけでなく、こころの成長にもつながるため、幼少期からスポーツに取り組むことの重要性を広く周知・啓発するとともに、楽しくスポーツを実践する機会の提供を行い、スポーツ習慣の定着に努めます。

また、中学校の休日の運動部活動の段階的な地域移行が国の方針として示されている中、子ども達がスポーツを実践する環境づくりの整備を進めます。

主な取組	担当課
少年・少女体力づくり教室（剣道、柔道、空手）	生涯学習課
ニュースポーツ体験会の開催	生涯学習課
スポーツにふれる機会の創出	生涯学習課
スポーツ少年団活動の育成、なぎなた競技活動の支援	生涯学習課
中学校運動部活動の地域移行	学校教育課 生涯学習課



ニュースポーツ体験会



なぎなた競技活動

施策③ 高齢者や障がいのある人のスポーツ活動の推進

高齢者にとってのスポーツは、健康増進や介護予防だけでなく、生きがいや仲間づくりにもつながり、心身の健康づくりにとって非常に大きな役割を果たしています。

また、本市では障がいのある人がスポーツを楽しめる環境が不足しているといった課題がありますが、年齢や障がいの有無にかかわらず、すべての市民が一緒になってスポーツを楽しめる環境づくりが重要であることから、多世代が楽しめるニュースポーツの魅力を広く発信し、普及を推進します。同時に、高齢者や障がいのある人も参加しやすい環境づくりの整備に取り組めます。

主な取組	担当課
介護予防体操の普及啓発（きんちゃん体操）	介護高齢課
障がい者のスポーツ機会の交流促進	生涯学習課
スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験会の開催	生涯学習課



障がい者のスポーツ機会の交流
（スポーツフェスティバル）



スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験会
（ENJOY スポーツ DAY）

施策④ スポーツによる健康づくりの推進

本市では、様々な健康教室や運動指導などの健康づくり施策を展開していますが、運動不足を感じている人が多くなっています。

運動不足が続くと、生活習慣病の発症リスクが高まることが指摘されているため、スポーツを通じて健康でいきいきとした生活を実現することができるよう、スポーツを通じた健康づくりを推進します。

主な取組	担当課
ラジオ体操の普及促進（8103 ラジオ体操）	生涯学習課
健康歩こう会	生涯学習課
介護予防体操の普及啓発（きんちゃん体操）	介護高齢課
介護予防教室	介護高齢課
やとみ健康マイレージ	健康推進課
生活習慣病予防教室	健康推進課

施策① 競技力の向上

本市では、スポーツ協会が中心となり、競技選手の育成や競技大会の主催・運営など、競技スポーツの推進はスポーツ参画人口の拡大につながるため、競技人口のさらなる拡大に向け、スポーツ協会等との連携を図り、スポーツ活動に関する情報提供を行います。

主な取組	担当課
スポーツ協会・スポーツ少年団の活動支援	生涯学習課
スポーツ講演会やスポーツ講習会の開催	生涯学習課

施策② 競技選手の育成・支援

全国大会などで活躍できる選手の育成に向けた、強化策に対する支援を行います。

主な取組	担当課
全国大会等出場者激励金支給制度	生涯学習課

基本目標2

スポーツをとりまく環境の充実 ～ スポーツを「ささえる」～

I

スポーツ環境の整備・充実

施策① スポーツ施設の整備・充実

継続的にスポーツを楽しむためには、スポーツ施設や広場、グラウンドといったスポーツをするための場所の充実が重要です。

生涯にわたり快適で安全にスポーツが行える環境の整備に向け、社会情勢や公共施設マネジメントの考え方を踏まえながら、小中学校の統廃合に伴う跡地利用の有効活用を検討する中で、スポーツ施設の整備・充実について進めていきます。

主な取組	担当課
スポーツ施設の整備、維持管理	生涯学習課
学校体育施設開放事業	生涯学習課

施策② スポーツ施設の有効活用

利用者のニーズに対応したスポーツ施設の効果的な運用に向けて、施設情報や利用方法等について広く情報発信を行うなど、サービスの向上に努めます。

また、気軽にスポーツを楽しむことができるよう、学校体育施設開放については、小中学校の統廃合に伴う施設の有効活用を図りつつ、より効果的な対応を検討していきます。

主な取組	担当課
利用者ニーズに対応した魅力的な施設運営	生涯学習課
スポーツ施設利用に関する情報の発信	生涯学習課

施策③ 総合型地域スポーツクラブの支援

総合型地域スポーツクラブ*とは、子どもから高齢者まであらゆる世代の人が、様々なスポーツに親しむことができる総合的なスポーツクラブで、地域住民が主体的に運営する、地域に根ざした新しいタイプのスポーツクラブですが、総合型地域スポーツクラブの運営にあたっては、運営を担う人材の確保や指導者の確保が全国的な課題となっているため、持続可能な方策を検討します。

主な取組	担当課
総合型地域スポーツクラブの支援	生涯学習課



施策① 指導者・ボランティアの育成

スポーツの楽しさや技術を伝える指導者など、スポーツを「ささえる」人材の育成は欠かせないものとなっており、その意味においては、スポーツ推進委員の役割について理解促進を図るとともに、実技指導や地域のスポーツ活動の推進役としての資質向上に努めます。

また、アジア競技大会を契機とし、さらなる指導者・ボランティアの人材育成を目指します。

主な取組	担当課
スポーツ推進委員の活動支援	生涯学習課
スポーツをささえるボランティアの育成	生涯学習課

施策② スポーツ関連団体への支援

本市では、スポーツ協会が地域の競技スポーツ振興の中心的役割を担っていますが、登録者数や会員数の減少、団体運営を行う人材の不足などが課題となっています。

スポーツ関連団体が持続的にスポーツ活動が行われるようにするため、活動場所の提供や活動のPR などによる支援を行います。

主な取組	担当課
各種スポーツ団体に対する支援	生涯学習課



スポーツ活動場所の提供

基本目標3

スポーツを通じたまちの魅力の創造 ～ スポーツで「つながる」～

I

スポーツを通じた交流の促進

施策① スポーツイベント・大会などの誘致

令和8年（2026年）には愛知県において、第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会が開催されることとなっています。

スポーツツーリズムを進めることは、スポーツによる交流人口の拡大、地方創生に大きく寄与するほか、スポーツ協会等と連携しスポーツイベントやスポーツ大会の情報や本市の魅力を市外に広く発信します。

主な取組	担当課
アジア競技大会・アジアパラ競技大会の機運醸成	生涯学習課
セントレアでのなぎなた競技演舞披露	生涯学習課

施策② スポーツを通じた仲間づくりの支援

スポーツを推進することは、「する」「みる」「ささえる」といったそれぞれの側面からスポーツに参加した人を仲間としてつなげる力があります。そして人と人が「つながる」ことは、地域の活性化につながるため、地域団体におけるスポーツ活動を推進するとともに、スポーツを通じた交流の機会を提供し、スポーツに参加した人がスポーツを通じて仲間づくりができるよう、取り組みます。

主な取組	担当課
スポーツ大会・イベントの開催	生涯学習課
スポーツ施設における交流の場の確保	生涯学習課

第4章 計画の推進

Ⅰ 計画の推進体制

本計画の推進にあたって、市民や市内外の様々なスポーツ団体や地域団体、民間事業者、教育機関などが互いに連携を図り、それぞれの強みを生かして主体的にスポーツ推進の担い手として取り組んでいくことが必要不可欠です。

本計画の目指す社会の実現に向けては、各主体が下記のような役割を担っていくことが求められます。

(1) 市民の役割

それぞれの年齢や体力にあわせ、スポーツを日常生活に取り入れることは生きがいづくりや心身の健康づくりにつながるため、積極的な参加が期待されます。

(2) スポーツ団体の役割

各団体の自主的なスポーツ活動を通じて、市民がスポーツに親しむ機会を提供するとともに、競技スポーツの普及や競技人口の拡大、競技力の向上などを推進する役割が期待されます。

(3) スポーツ推進委員の役割

地域におけるスポーツ活動のリーダーとして、市民に対し、スポーツの楽しさの啓発や実践のきっかけづくりを行うことが期待されます。

(4) 学校の役割

小中学校は学校体育施設の開放により、市民が身近な場所でスポーツ活動が行える環境を提供することのほか、児童生徒が地域でスポーツをすることができるよう、地域との連携を図ることが期待されます。

(5) 弥富市の役割

本計画がより多くの市民に理解され、スポーツ実施率の向上につながるよう、計画の周知に努めます。

また、生涯学習課が中心となって、各関係課と連携を図り、スポーツ施設環境の充実や、「弥富らしさ」を生かしたスポーツの推進、スポーツを通じた活力あるまちづくりに取り組みます。

2 成果目標

本計画で示す施策の取組状況の進捗を評価するため、以下の成果目標を設定します。

計画の最終目標

指標	現状値	目標値	
		令和10年度	令和15年度
スポーツで体を動かすことが好きな人の割合	49.1% (令和5年度)	55%	60%

プロセス目標

分野	指標	現状値	目標値	
			令和10年度	令和15年度
基本目標1 スポーツに親しむ 機会の創出 スポーツを 「する」「みる」	屋内スポーツ施設年間利用者数	193,765 人 (令和4年度)	230,000 人	250,000 人
	屋外スポーツ施設年間利用者数	133,268 人 (令和4年度)	150,000 人	170,000 人
基本目標2 スポーツをとりま く環境の充実 スポーツを 「ささえる」	市スポーツ協会加入者数	1,850 人 (令和4年度)	2,000 人	2,200 人
	スポーツ推進委員等主催の スポーツ行事・講習会年間参加者数	833 人 (令和4年度)	1,000 人	1,200 人
基本目標3 スポーツを通じた まちの魅力の創造 スポーツで 「つながる」	大規模スポーツイベントの誘致件数 (本市が誘致した件数)	0 件 (平成30年度 ～ 令和4年度)	1 件	2 件
	市民スポーツ大会の年間参加者数	1,941 人 (令和4年度)	2,300 人	2,500 人



3.用語解説

ア行

【ICT（情報通信技術）】

Information and Communication Technology（情報通信技術）の略称です。

IT（Information Technology（情報技術））とほぼ同義ですが、IT は「情報技術を取り入れること」自体を意味するのに対し、ICT は「通信技術を使ったコミュニケーション」という意味合いが強くなっています。

【AI（人工知能）】

コンピュータを使って、学習・推論・判断など人間の知能の働きを人工的に実現したもの。

【IoT（Internet of Things）】

Internet of Things（モノのインターネット）の略称で、インターネットに接続されていなかったモノが、ネットワークを通じてサーバーやクラウドと接続して相互に情報交換をする仕組みのことを意味します。

【一億総スポーツ社会】

「第2期スポーツ基本計画」で掲げられた目標で、すべての国民がスポーツに携わることで健康長寿社会の実現を目指すものです。

【SNS】

Social networking service の略。スマホやパソコンを使って人間関係を構築することのできるオンライン上のコミュニティサービスの総称をいう。

カ行

【健康寿命】

平成12年（2000年）に世界保健機関（WHO）が提唱した集団の健康状態を表す健康指標の一つで、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことです。

サ行

【人生100年時代】

100歳まで人生が続くのが当たり前となる時代を意味する言葉です。人生100年時代では、これまでの「教育→仕事→引退」という3つのステージから、一人一人が多様な人生を生きるといった、「マルチステージ」の人生に移行していくとされています。

【スポーツツーリズム】

スポーツを観戦したり参加したりすることを目的とした旅行・観光を指す言葉です。平成23年（2011年）に観光庁によって取りまとめられた「スポーツツーリズム推進基本方針」では、スポーツツーリズムは、「観る」、「する」、「支える」ための旅行そのものや周辺地の観光に加え、地域内外のスポーツを「観る」、「する」、「支える」人々との交流や旅行者がスポーツを楽しむことができる環境の整備、国際競技大会の誘致や開催、合宿の誘致が含まれるとされています。

【総合型地域スポーツクラブ】

学校体育施設や公共スポーツ施設といった地域のスポーツ施設を拠点にして、地域住民が自ら運営委員会を組織し主体的に運営するスポーツクラブのことです。一つの種目だけでなく多様なスポーツ種目を楽しむことができるといった特徴を持っています。

【Society5.0】

平成28年（2016年）に閣議決定された「第5期科学技術基本計画」の中で提唱された、日本が目指すべき未来社会のことで、AIやIoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技术をあらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな社会の姿のことです。「第5期科学技術基本計画」では、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」と定義されています。

タ行

【地域共生社会】

平成28年（2016年）6月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」で示されたビジョンで、子どもや高齢者、障がいのある人を含め、地域のあらゆる住民が地域に主体的に参画し、ともに支え合いながら自分らしく活躍できる地域社会のことを指します。国においては、「制度・分野ごとの『縦割り』や、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」と定義されています。

ナ行

【ニュースポーツ】

「いつでも、どこでも、だれにでも」気軽に参加できるように、これまでのスポーツをアレンジしたり、新しく考えたりしたものです。ニュースポーツは、専門的技術や経験がなくても子どもから高齢者まで幅広い年代が参加できる、障がいの有無にかかわらず参加できるという特徴があります。

ハ行

【PDCA サイクル】

PDCA は、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字をとったもので、この4つの段階を循環的に繰り返し行うことで、取組の改善・効率化を図る手法のことです。

ラ行

【レガシー】

「遺産、財産、先人の遺物、受け継いだもの」を意味する言葉です。

ここでは、「有形・無形を問わず、大規模国際大会の開催を契機として社会に生み出される持続的効果」を意味します。



弥富市



令和 6 年 8 月

発行・編集 弥富市教育委員会教育部生涯学習課

〒498-0017 弥富市前ヶ須町野方 802-20

弥富市総合社会教育センター

TEL 0567-65-0002